

被災地における石綿によるばく露に関する調査業務

報告書

(実施:平成 23 年度～平成 24 年度)

平成 25 年 2 月

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災では、建築物の倒壊等により、石綿（アスベスト）の飛散が懸念されていることから、大気濃度調査や防じんマスク着用の周知徹底など、石綿の飛散及びばく露防止のための対策が進められているところです。

現在までのところ、がれき集積所などでは通常の大気環境の状況と大きな変化はないことが確認されていますが、石綿による健康被害は、石綿を吸ってから非常に長い年月（35 年前後）を経て発症することから、被災地の現状について情報収集を行うことが将来の健康相談の実施等に役立つものと考えられます。このため、被災地域に居住し被災された方々に、石綿ばく露に関連する情報である被災前の職歴や被災後の居住歴、避難所での生活の様子等をおたずねするアンケートを実施することとしました。

本調査は環境省より委託を受け、エム・アール・アイ リサーチアソシエイト株式会社が実施致しました。

概 要

○ 調査目的

石綿による健康被害はばく露から数十年後に発症するものであり、被災地においては、石綿による将来の健康被害が懸念されていることから、聞き取り調査等により、石綿ばく露の現状を把握するための調査を行った。

○ 調査地域

被災地（東北 3 県）における倒壊戸数や国土交通省が実施した津波被害の浸水状況に関する調査結果等をもとに、倒壊戸数や浸水面積の割合が高い 20 市町村を選定した。

＜調査対象市町村＞

- ・岩手県：陸前高田市、宮古市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、野田村
- ・宮城県：石巻市、仙台市、東松島市、亘理町、気仙沼市、多賀城市、山元町、七ヶ浜町、女川町、南三陸町
- ・福島県：南相馬市、相馬市、いわき市

○ 調査対象者

仮設住宅の居住者を対象として、1 市町村当たり 1 仮設住宅を対象とし、1 仮設住宅当たり平均 25 名程度（全体で 500 名程度）から回答を得ることを目標とした。

○ 調査方法

質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則とし、一部、留め置き調査を併用した。

○ 現地調査期間

- ・平成 23 年度調査：平成 24 年 2 月 18 日～3 月 4 日
- ・平成 24 年度調査：平成 24 年 11 月 17 日～12 月 2 日

○ 調査結果

1,664 名を訪問し、652 名（約 39%）から回答を得た。

➤ 回答者の属性

652 名の性別は、男性 288 名（約 44%）、女性 360 名（約 55%）、無回答 4 名（約 1%）であった。また、年齢階級別にみると 70 代以上が約 24%、60 代が約 22% であり、50 代以下が約 54%であった。

➤ 被災前の石綿ばく露に関する状況

被災前の職業が「自営業」もしくは「勤め人（パートタイム含む）」と答えた 389

名に対し、石綿の取扱い有無の認識を聞いたところ、「あると思う」人は33名(8.5%)であった。

➤ 被災後の石綿ばく露に関する状況

震災後に建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」人は、4、5月(GW前後)の415名(63.7%)をピークに、同年8~12月になると316名(48.5%)まで減少した。

災害廃棄物処理現場近くで作業をしたことが「あった」人は、期間を問わず10名弱で、「被災現場での建物の解体、除去」作業現場近くで作業された方が期間を問わず最も多かった。また、災害廃棄物処理現場近くを通ったことが「あった」人は、期間を問わず5割を超えた。(平成24年度のみ調査)

➤ 石綿対策に関する情報入手状況

石綿のことを「知っている」と答えた人は412名(63.2%)で、「聞いたことがある」と答えた人197名(30.2%)を加えると9割を超えた。

認知した時期は、「震災発生前から」と答えた人が9割を超え、具体的な認知時期は「2000年代」が最も多く4割を超えた。

石綿に関する情報の入手先としては、「テレビ」が481名(82.4%)と最も多く、次いで「新聞」250名(42.8%)であった。

被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況は「見ていない、聞いていない」と答えた人が469名(71.9%)であった。また、「見た、もしくは聞いたことがある」と答えた人180名(27.6%)に情報入手後気をつけたことを聞いたところ、「気をつけたことはなかった」と答えた人が105名(58.3%)で最も多かった。

○ まとめ

本業務では2か年にわたり、現地で被災者に聞き取り調査等を行うことにより、被災地での石綿ばく露の現状を把握した。被災後の石綿ばく露については、時間が経過するにつれて被災者の行動も多様化していく中で、可能な限りばく露の種類を網羅できるように調査を行った。

平成23年時点での石綿ばく露の種類については、自宅や職場などの建物が倒壊した地域への出入りを中心に整理を行った。結果として、「状況確認(様子を見に行っただけ)」のために入力していた方が最も多かったが、現地での作業内容についても多様な回答が確認された。

平成24年時点での石綿ばく露の種類については、災害廃棄物等との関係性に着目して整理を行った。結果として、災害廃棄物処理現場近くで作業をしたことがある方は10名も満たなかったが、近くを通過した方は多数確認された。

石綿による健康被害はばく露から数十年後に発生するものであり、被災地におけるばく露の現状を記録として整理しておくことが重要と考える。

目 次

1. 実施概要	1
1.1 目的.....	1
1.2 実施期間	1
1.3 実施項目	1
2. 調査内容の検討.....	3
3. 現地調査.....	4
3.1 調査対象市町村	4
3.2 調査対象者.....	6
3.3 調査方法	7
3.4 現地調査期間.....	8
4. 集計分析、調査結果の取りまとめ.....	10
4.1 有効回答数.....	11
4.2 回答者の属性.....	12
4.2.1 県別.....	12
4.2.2 性別.....	13
4.2.3 年齢階級別.....	14
4.3 被災前の石綿ばく露に関する状況.....	16
4.3.1 被災前の職業でのアスベスト取り扱い有無.....	16
4.3.2 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業に従事していた年数（合計）及び具体的な作業内容	17
4.4 被災後の石綿ばく露に関する状況.....	18
4.4.1 被災後の石綿ばく露に関する状況整理の視点.....	18
4.4.2 被災後の生活環境.....	19
4.4.3 自宅や職場などの建物が倒壊した地域との関係【平成 23 年】	22
4.4.4 災害廃棄物との関係【平成 24 年】	33
4.5 石綿（アスベスト）対策に関する情報入手状況	37
4.5.1 石綿（アスベスト）に関する認知度.....	37
4.5.2 石綿（アスベスト）を認知した時期.....	38
4.5.3 石綿（アスベスト）を認知した手段.....	39
4.5.4 身の回りのアスベストの有無.....	40
4.5.5 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況.....	42
4.5.6 アスベスト対策の情報入手後に気がつけたこと.....	43
5. まとめ.....	44
添付 1 平成 23 年度調査 調査票	
添付 2 平成 24 年度調査 調査票	
添付 3 調査対象仮設住宅の位置関係	

1. 実施概要

1.1 目的

東日本大震災による被災地においては、建築物の倒壊や膨大な災害廃棄物処理等により、石綿による将来の健康被害が懸念されている。石綿による健康被害はばく露から数十年後に発症するものであり、震災後の被災地における石綿ばく露の状況を把握しておくことは将来のリスク管理のために重要と考えられる。このため、現地で被災者に聞き取り調査等を行うことにより、被災地での石綿ばく露の現状を把握することを目的とする。

1.2 実施期間

調査は平成 23 年度及び平成 24 年度の 2 か年で実施した。

1.3 実施項目

(1) 調査内容の検討

調査の実施にあたり、調査内容について検討を行った。

検討に当たっては、平成 23 年度及び平成 24 年度の 2 か年の調査であることを踏まえ、継続性の確保に留意した。

(2) 現地調査

石綿ばく露の現状を把握するため、被災者に対して聞き取り調査を行った。調査対象の市町村、対象者数等は以下を想定し、詳細については、後述する検討会での検討を踏まえて対応した。

○調査対象市町村：10 市町村程度

○調査対象者：仮設住宅に居住している被災者

○調査対象数：合計 250 名程度

○仮設住宅の箇所数：合計 10 箇所程度（上記各市町村につき 1 箇所）

(3) 集計分析、調査結果の取りまとめ

現地調査にて収集した調査結果をもとに、クロス集計等によって、石綿ばく露の状況を把握するため、詳細な分析を行った。

また、調査結果は、①石綿ばく露の現状把握に基づく情報提供による被災者の不安解消、②石綿による被害が将来発生した場合に、対象類型を絞って検診の呼びかけを行うことへの活用等に資するよう、取りまとめを行った。

(4) 検討会の開催

上記の調査を進めるに当たっては、有識者からなる検討会を設置し、その検討に付するものとした。委員の名簿を表 1-1 に示す。

表 1-1 被災地における石綿によるばく露に関する調査検討会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏名	所属・役職
安達 修一	相模女子大学 教授
◎神山 宣彦	東洋大学大学院経済学研究科 客員教授
名古屋 俊士	早稲田大学理工学術院 教授

◎：座長

また、検討会等の開催の概要を表 1-2 に示す。平成 23 年度業務では検討会は開催せず、委員に個別にヒアリングを行った。

表 1-2 検討会概要

第 1 回	日時	平成 24 年 9 月 7 日 (金) 17 時 00 分～18 時 30 分
	議題	(1)平成 23 年度調査の概要について (2)平成 24 年度調査計画について
第 2 回	日時	平成 24 年 10 月 22 日 (月) 16 時 10 分～18 時 00 分
	議題	(1)平成 24 年度調査 現地調査調整状況について (2)平成 24 年度調査 調査票案について (3)調査結果取りまとめ案について
第 3 回	日時	平成 24 年 12 月 17 日 (月) 10 時 00 分～11 時 30 分
	議題	(1)平成 24 年度調査 調査結果について (速報) (2)報告書案について
第 4 回	日時	平成 25 年 1 月 23 日 (水) 10 時 00 分～11 時 40 分
	議題	(1)報告書案について

2. 調査内容の検討

平成 23 年度調査では、石綿の多くはこれまで建材として建築物に使用されており、建築物の倒壊によって石綿が飛散した可能性があることを踏まえ、被災前のばく露歴、被災直後の石綿ばく露に関連する状況及び避難後の石綿ばく露に関連する状況などに関する内容とした。

また平成 24 年度調査では、平成 23 年度調査結果及び他の機関等で実施されている調査結果をもとに、石綿ばく露に限らず被災者の行動パターンの整理にも重点を置いた設問設定とした。これは、震災後の時間経過に伴い、建物が倒壊した地域へ立ち入っていない被災者が増加してきているためであり、被災地域への立ち入りに加えて、被災者の日常の行動様式を把握することで、石綿ばく露の状況をより正確に把握することを目的とするためである。

なお、調査項目の検討にあたっては、厚生労働省が平成 17 年度に取りまとめた「石綿ばく露歴把握のための手引」を参考とした。また、既存調査との重複を避け、調査対象者が回答する際に過度な負担を強いるものにならないよう、分量等に留意して作成した。

それぞれの調査票を添付 1 及び添付 2 に示すとともに、その概要を表 2-1 に示す。

表 2-1 調査内容

調査項目	平成 23 年度	平成 24 年度
基本情報		
性別・年齢	○	○
被災前のばく露に関連する状況		
職業歴	○	○
居住歴	○	×
生活歴	○	○
被災直後の石綿ばく露に関する状況		
被災直後にいた場所	○	×
避難方法等	○	×
避難後の石綿ばく露に関する状況		
【平成 23 年】		
生活拠点及びその被害状況	×	○
生活拠点近くにある建物の状況	×	○
避難場所での過ごし方	○	×
建物が倒壊した地域への立ち入り状況	○	○
建物が倒壊した地域での作業状況	○	○
【平成 24 年】		
日常生活の状況	×	○
外出状況	×	○
災害廃棄物との関係性	×	○
石綿（アスベスト）に関する意識		
被災前後のアスベストに関する情報入手状況等	○	○

《凡例》○：調査実施項目、×：調査未実施項目

3. 現地調査

3.1 調査対象市町村

平成 23 年度調査及び平成 24 年度調査では、それぞれ 10 市町村を対象とした。対象の市町村を表 3-1 及び図 3-1 に示す。

表 3-1 調査対象市町村

県別	市町村数	市町村名	
岩手県	7	23 年度 (3)	陸前高田市、宮古市、大船渡市
		24 年度 (4)	釜石市、上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町、九戸郡野田村
宮城県	10	23 年度 (4)	石巻市、仙台市、東松島市、亶理郡亶理町
		24 年度 (6)	気仙沼市、多賀城市、亶理郡山元町、宮城郡七ヶ浜町、牡鹿郡女川町、本吉郡南三陸町
福島県	3	23 年度 (3)	南相馬市、相馬市、いわき市
		24 年度 (0)	—

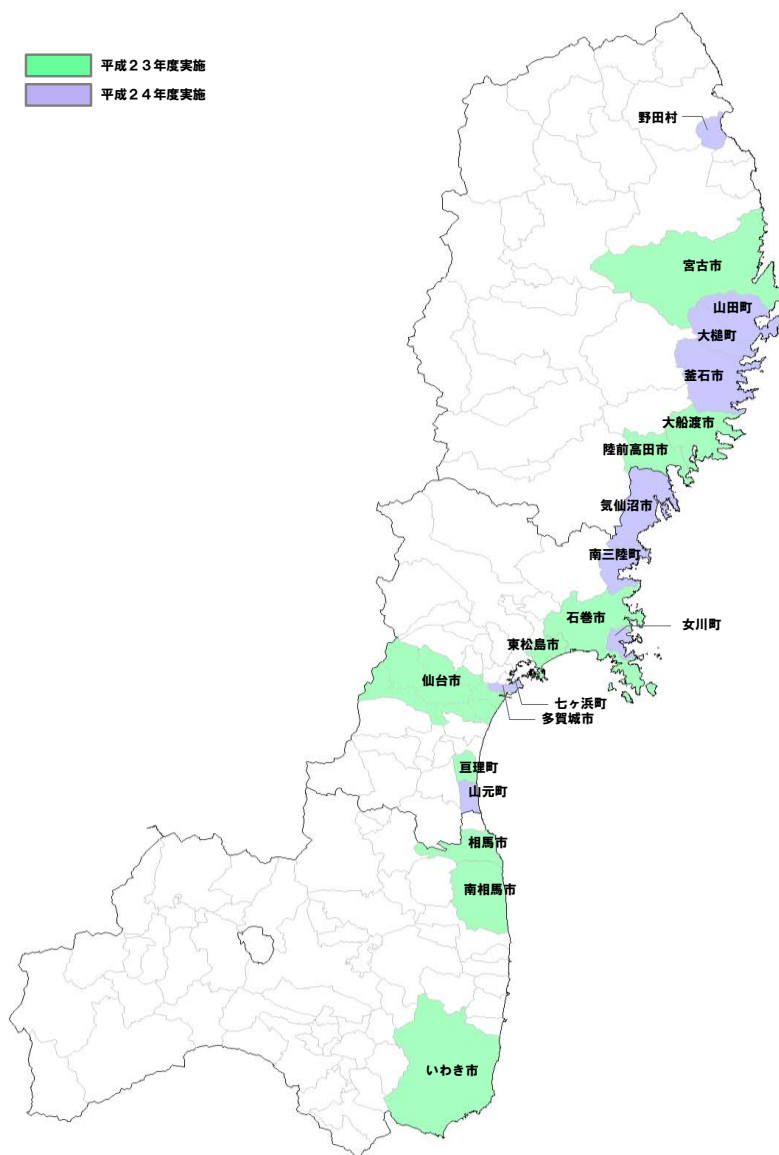


図 3-1 調査対象市町村の位置関係

また、国土交通省などの調査結果¹をもとに、調査対象市区町村別に浸水率及び倒壊率を推計した。推計した結果を表 3-2 に示す。

表 3-2 市区町村別浸水率及び倒壊率<計算> (浸水率の降順)

区分 (○: H24 対象、 □: H23 対象)	市区町村	①全建物数	②津波浸水 範囲に含ま れる建物数	③倒壊戸数 (住家のみ) ²	浸水率 (②/①)	倒壊率 (③/①)
○	岩手県上閉伊郡大槌町	11,869	7,322	3,717	61.69%	31.32%
□	宮城県東松島市	27,235	16,794	11,012	61.66%	40.43%
○	宮城県牡鹿郡女川町	7,244	4,411	3,261	60.88%	45.02%
○	宮城県本吉郡南三陸町	12,713	6,871	3,311	54.04%	26.04%
□	宮城県石巻市	112,146	59,405	33,378	52.97%	29.76%
○	岩手県下閉伊郡山田町	14,720	6,057	3,167	41.15%	21.51%
○	宮城県亶理郡山元町	13,120	5,344	3,292	40.73%	25.09%
□	岩手県陸前高田市	21,968	8,695	3,341	39.58%	15.21%
□	宮城県亶理郡亶理町	22,624	7,752	3,353	34.26%	14.82%
○	宮城県気仙沼市	52,525	15,800	11,034	30.08%	21.01%
○	岩手県九戸郡野田村	3,825	1,126	479	29.43%	12.52%
—	宮城県塩竈市	26,496	7,723	4,470	29.15%	16.87%
○	宮城県多賀城市	22,524	6,343	4,942	28.16%	21.94%
□	岩手県大船渡市	31,772	8,437	3,629	26.55%	11.42%
○	岩手県釜石市	28,406	7,453	3,648	26.24%	12.84%
○	宮城県宮城郡七ヶ浜町	10,588	2,765	1,303	26.11%	12.31%
—	宮城県岩沼市	20,682	5,304	2,165	25.65%	10.47%
—	福島県相馬郡新地町	7,231	1,781	566	24.63%	7.83%
□	岩手県宮古市	45,438	11,000	4,675	24.21%	10.29%
—	宮城県名取市	32,954	5,905	3,914	17.92%	11.88%
—	岩手県下閉伊郡田野畑村	3,695	585	270	15.83%	7.31%
□	宮城県仙台市宮城野区	54,382	8,532	不明	15.69%	—
□	福島県相馬市	26,759	4,182	1,767	15.63%	6.60%
—	宮城県宮城郡松島町	9,255	1,188	1,783	12.84%	19.27%
—	宮城県仙台市若林区	42,452	4,861	不明	11.45%	—
□	福島県南相馬市	54,383	5,502	6,738	10.12%	12.39%
—	福島県双葉郡浪江町	4,730	403	614	8.52%	12.98%
—	福島県双葉郡双葉町	7,548	643	83	8.52%	1.10%
—	福島県双葉郡広野町	17,035	1,452	不明	8.52%	—
—	茨城県東茨城郡大洗町	12,436	980	297	7.88%	2.39%
—	茨城県北茨城市	32,440	2,516	1,395	7.76%	4.30%
○	岩手県久慈市	30,983	2,257	277	7.29%	0.89%
□	福島県双葉郡楢葉町	7,802	568	50	7.28%	0.64%
○	岩手県下閉伊郡普代村	2,320	157	0	6.77%	0.00%
○	千葉県山武郡九十九里町	16,740	872	70	5.21%	0.42%
□	福島県いわき市	231,205	11,226	37,707	4.86%	16.31%

¹ 国土交通省国土政策局国土情報課「東北地方太平洋沖地震における津波被害市区町村の浸水被害建物数計測について」(URL: <http://www.mlit.go.jp/common/000162412.pdf>)

² 消防庁「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第 144 報)」(URL: <http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou/pdf/jishin/144.pdf>)

なお、倒壊戸数は全壊+半壊数にて算出し、一部破損、非住家は含まない。

3.2 調査対象者

調査は仮設住宅に居住している方を対象に実施した。対象とした仮設住宅を表 3-3 に示す。また、対象とした仮設住宅の位置関係を添付 3 に示す。

表 3-3 調査対象仮設住宅

県	市町村	調査対象仮設住宅	仮設住宅	
			箇所数	戸数
岩手県	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	62	2,010
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地		
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	39	1,811
	陸前高田市	県立高田高等学校第 2 グラウンド	53	2,168
	釜石市	釜石市平田仮設団地	50	3,164
		釜石市平田第 2 仮設団地		
	大槌町	大槌町大槌第 5 仮設団地	48	2,146
		大槌町小槌第 8 仮設団地		
	山田町	船越第 8 仮設団地	49	1,990
野田村	野田村野田（中学校）仮設団地	5	213	
宮城県	仙台市	仙台港背後地 6 号公園	8	576
	石巻市	万石浦公園	131	7,297
	気仙沼市	大谷中学校住宅	93	3,504
	多賀城市	多賀城公園野球場	6	373
	東松島市	矢本運動公園	25	1,753
	亶理町	亶理町中央工業団地	5	1,126
		亶理町公共ゾーン		
		中央公民館南広場		
		宮城県蚕業試験場本部跡地		
	山元町	浅生原東田仮設団地	11	1,030
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	7	421
		七ヶ浜中学校第 2 グラウンド		
	女川町	運動公園野球場	30	1,294
運動公園第一多目的運動場				
南三陸町	戸倉中学校	58	2,195	
	神割崎キャンプ場			
福島県	いわき市	いわき市高久第一	32	3,472
	相馬市	相馬市北飯渕	13	1,500
	南相馬市	南相馬市小池長沼	26	2,665

(仮設住宅の設置箇所数及び戸数は平成 24 年 10 月現在の値)

3.3 調査方法

調査は質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則として、一部、留め置きを併用³した。調査地点別の調査方法を表 3-4 に示す。

表 3-4 調査方法

県	市町村	調査対象仮設住宅	調査方法
岩手県	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	訪問面接
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地	訪問面接
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	集会所での面接
	陸前高田市	県立高田高等学校第2グラウンド	留め置き
	釜石市	釜石市平田仮設団地	訪問面接
		釜石市平田第2仮設団地	訪問面接
	大槌町	大槌町大槌第5仮設団地	訪問面接
		大槌町小槌第8仮設団地	訪問面接
	山田町	船越第8仮設団地	訪問面接
	野田村	野田村野田（中学校）仮設団地	集会所での面接
宮城県	仙台市	仙台港背後地6号公園	訪問面接
	石巻市	万石浦公園	留め置き
	気仙沼市	大谷中学校住宅	集会所での面接
	多賀城市	多賀城公園野球場	集会所での面接
	東松島市	矢本運動公園	訪問面接
	亘理町	亘理町中央工業団地	集会所での面接
		亘理町公共ゾーン	集会所での面接
		中央公民館南広場	集会所での面接
		宮城県蚕業試験場本部跡地	集会所での面接
	山元町	浅生原東田仮設団地	集会所での面接
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	留め置き
		七ヶ浜中学校第2グラウンド	集会所での面接
	女川町	運動公園野球場	集会所での面接
		運動公園第一多目的運動場	訪問面接
	南三陸町	戸倉中学校	集会所での面接
		神割崎キャンプ場	集会所での面接
福島県	いわき市	いわき市高久第一	集会所での面接
	相馬市	相馬市北飯渕	訪問面接
			集会所での面接
南相馬市	南相馬市小池長沼	集会所での面接	

³ 調査実施のための事前調整の際に、自治会長より留置法による調査実施を強く依頼された地点については留置法とした。留置法は面接法に比べ、回答内容の精度が落ちることが懸念されるが、調査票の回収時に回答内容を確認させてもらうなどにより、できる限り面接法の回答精度に近づけるよう努めた。

3.4 現地調査期間

調査は土曜日もしくは日曜日に行った(平成23年度調査:平成24年2月18日(土)~3月4日(日)、平成24年度調査:平成24年11月17日(土)~12月2日(日))。休日に調査を行ったのは、主に以下の理由によるものである。

- ・平日の仮設住宅には高齢者の在室率が高く、調査結果に偏りが生じるおそれがある
- ・平日の仮設住宅は不在率が高く、目標回答数を得られないおそれがある

表 3-5 現地調査日

県	市町村	調査対象仮設住宅	現地調査日
岩手県	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	H24.3.3、4
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地	H24.3.3、4
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	H24.2.19
	陸前高田市	県立高田高等学校第2グラウンド	H24.2.18、19
	釜石市	釜石市平田仮設団地	H24.12.1
		釜石市平田第2仮設団地	H24.12.1
	大槌町	大槌町大槌第5仮設団地	H24.11.25
		大槌町小槌第8仮設団地	H24.11.25
	山田町	船越第8仮設団地	H24.11.24
	野田村	野田村野田(中学校)仮設団地	H24.11.25
宮城県	仙台市	仙台港背後地6号公園	H24.3.4
	石巻市	万石浦公園	H24.2.18、19
	気仙沼市	大谷中学校住宅	H24.11.18
	多賀城市	多賀城公園野球場	H24.12.1
	東松島市	矢本運動公園	H24.3.3、4
	亶理町	亶理町中央工業団地	H24.2.25
		亶理町公共ゾーン	H24.2.25
		中央公民館南広場	H24.2.26
		宮城県蚕業試験場本部跡地	H24.2.26
	山元町	浅生原東田仮設団地	H24.11.17
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	H24.12.2
		七ヶ浜中学校第2グラウンド	H24.12.2
	女川町	運動公園野球場	H24.12.2
		運動公園第一多目的運動場	H24.12.2
	南三陸町	戸倉中学校	H24.11.17、18
		神割崎キャンプ場	H24.11.18
福島県	いわき市	いわき市高久第一	H24.3.4
	相馬市	相馬市北飯渕	H24.3.3
	南相馬市	南相馬市小池長沼	H24.2.25

4. 集計分析、調査結果の取りまとめ

本報告書には、2か年の調査結果の概要を記載した。詳細については個別の報告書を参照されたい。

また、集計にあたっては調査方法の違いを区別せずに行った。

なお、図表中の「総数」は平成23年度調査及び平成24年度調査の合計値を指し、「H23」は平成23年度調査を、「H24」は平成24年度調査を指す。

4.1 有効回答数

652名から回答を得た。調査地点別の回収状況を表4-1に示す。平成24年度調査は、平成23年度調査と比較すると不在率が高かった。

表4-1 調査地点別回収状況

県	市町村	調査対象仮設住宅	戸数	訪問数	回収数	不在	拒否
岩手県	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	20	20	18	0	2
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地	30	29	18	8	3
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	138	-	23	-	-
	陸前高田市	県立高田高等学校第2グラウンド	148	50	39	6	4
	釜石市	釜石市平田仮設団地	111	59	15	43	1
		釜石市平田第2仮設団地	123	119	15	93	11
	大槌町	大槌町大槌第5仮設団地	273	20	2	17	1
		大槌町小槌第8仮設団地	120	86	34	49	3
	山田町	船越第8仮設団地	108	104	30	67	7
	野田村	野田村野田(中学校)仮設団地	128	111	30	73	8
宮城県	仙台市	仙台港背後地6号公園	100	71	32	28	11
	石巻市	万石浦公園	101	31	31	0	0
	気仙沼市	大谷中学校住宅	186	148	33	98	17
	多賀城市	多賀城公園野球場	162	132	31	82	19
	東松島市	矢本運動公園	371	262	55	169	38
	亶理町	亶理町中央工業団地	272	-	6	-	-
		亶理町公共ゾーン	558	-	16	-	-
		中央公民館南広場	95	-	5	-	-
		宮城県蚕業試験場本部跡地	116	-	16	-	-
	山元町	浅生原東田仮設団地	159	150	32	96	22
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	151	24	21	3	0
		七ヶ浜中学校第2グラウンド	106	82	15	63	4
	女川町	運動公園野球場	189	40	22	9	9
		運動公園第一多目的運動場	154	9	9	0	0
	南三陸町	戸倉中学校	67	60	28	18	14
神割崎キャンプ場		31	18	9	8	1	
福島県	いわき市	いわき市高久第一	200	-	26	3	3
	相馬市	相馬市北飯渕	206	39	24	13	2
	南相馬市	南相馬市小池長沼	189	-	17	-	-
総数			4,612	1,664 ⁴	652	946	180

⁴ 訪問面接の場合には「訪問数＝回収数＋不在＋拒否」の関係となるが、集会所による面接も行っているため、総数欄については「訪問数＝回収数＋不在＋拒否」とはならない。

4.2 回答者の属性

4.2.1 県別

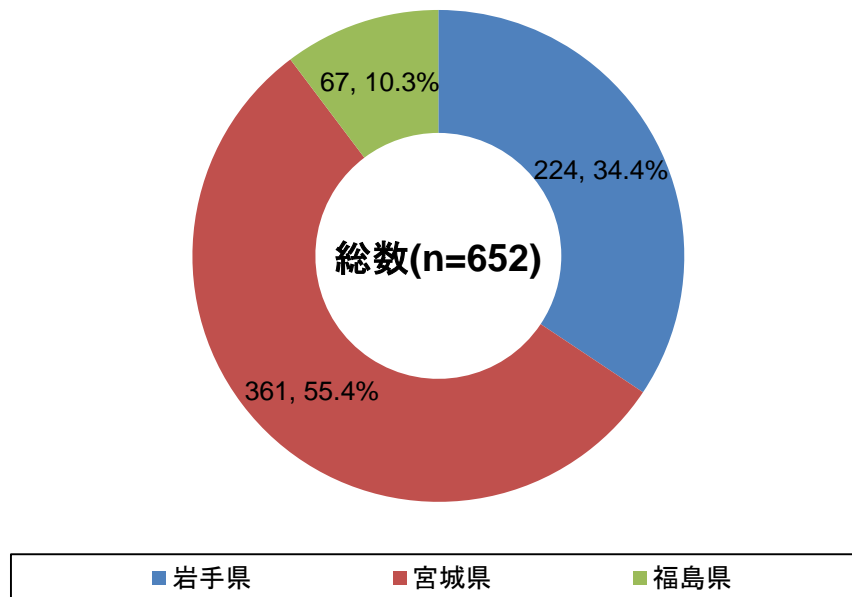


図 4-1 回答者の属性（県別）

回答者の属性を県別にみると、宮城県の方の占める割合が 5 割を超える。

4.2.2 性別

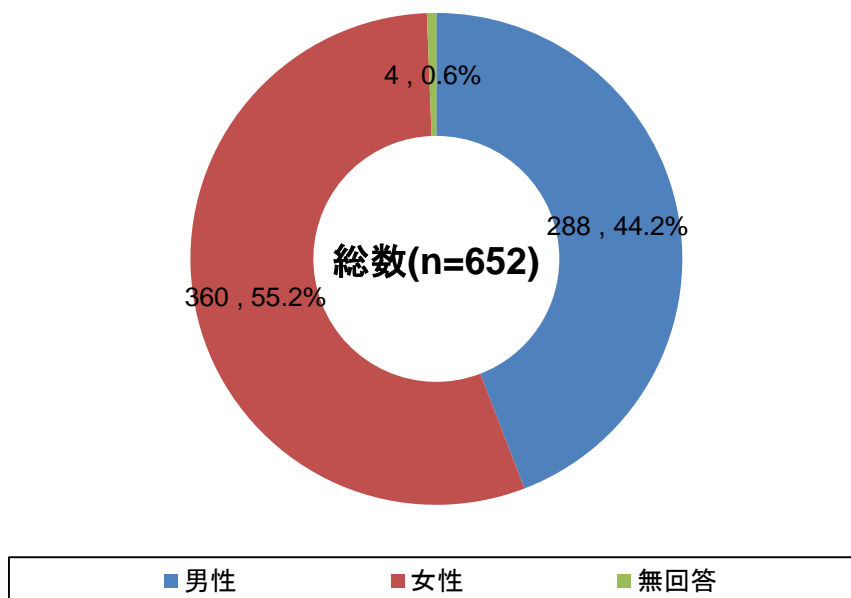


図 4-2 回答者の属性（性別）

回答者の属性を性別にみると、全体としては女性の方がやや多かったが、県別にみると、福島県では男性の方が多かった。

《属性別集計：県別》

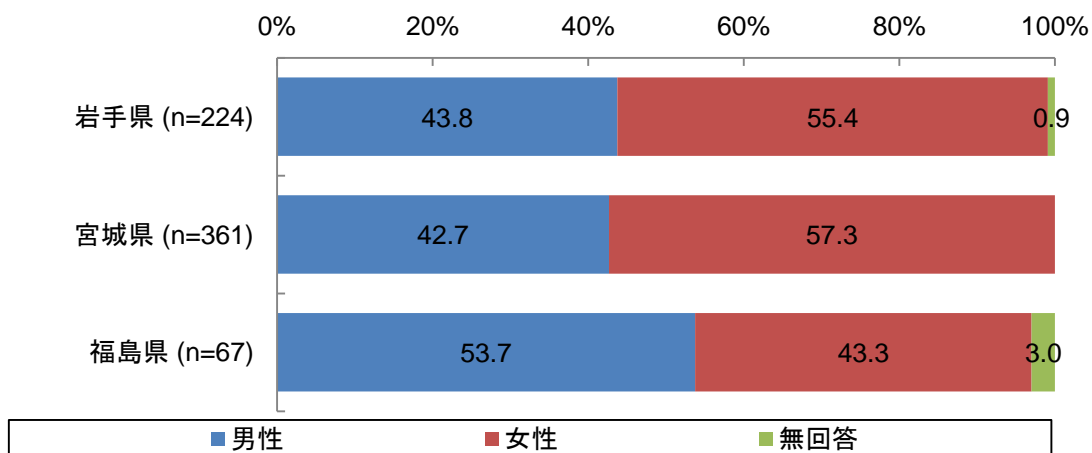


図 4-3 回答者の属性（性別×県別）

4.2.3 年齢階級別

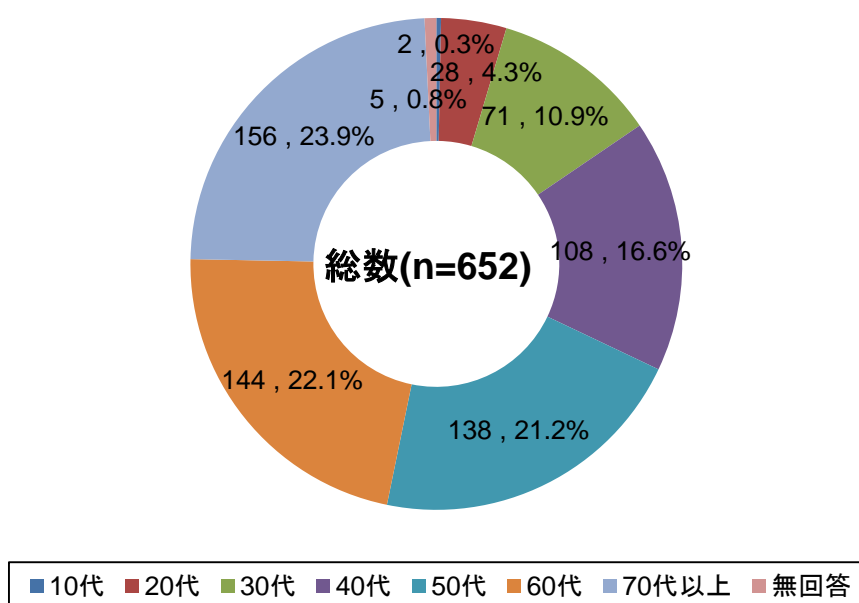


図 4-4 回答者の属性（年齢階級別）

回答者の属性を年齢階級別にみると、全体としては70代が最も多いが、50代以下が占める割合は5割を超える。

県別にみると、宮城県では70代以上の占める割合は約3割であった。

《属性別集計：県別》



図 4-5 回答者の属性（年齢階級別×県別）

20代以上を対象に、調査対象となった20市町村の年齢階級別の分布と平成22年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）の分布（仙台市のみ宮城野区の結果で計算）を比較すると、20代及び30代は国勢調査結果よりも占める割合が低いが、40代以上になると国勢調査結果よりも占める割合が高い。

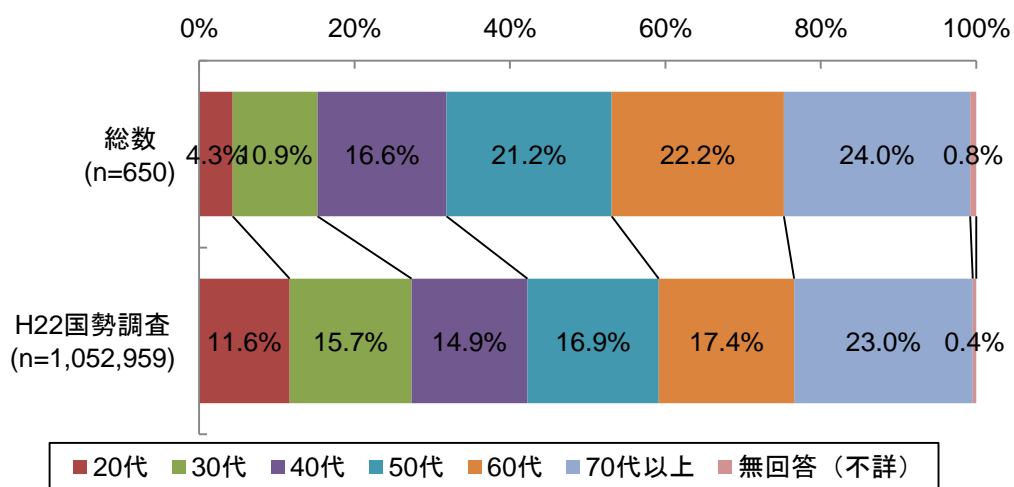
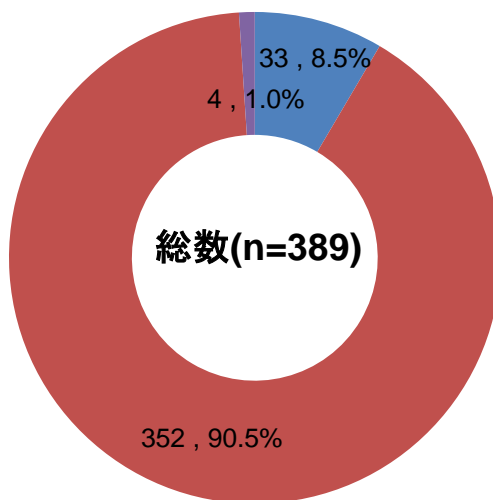


図 4-6 回答者の属性（年齢階級別（平成22年国勢調査との比較））

4.3 被災前の石綿ばく露に関する状況

4.3.1 被災前の職業でのアスベスト取り扱い有無

【平成 23 年度調査：問 7、平成 24 年度調査：問 3】



■あると思う ■ないと思う ■わからない ■無回答

図 4-7 被災前の職業でのアスベスト取り扱い有無

被災前の石綿ばく露に関する状況として、被災前の職業が「自営業」もしくは「勤め人（パートタイム含む）」と答えた 389 名に対し、「アスベスト」または「石綿」の取り扱い有無の認識を聞いたところ、回答者の認識として取り扱ったことが「あると思う」人は 33 名（8.5%）確認された。

4.3.2 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業に従事していた年数（合計）及び具体的な作業内容

【平成 23 年度調査：問 8、平成 24 年度調査：問 4】

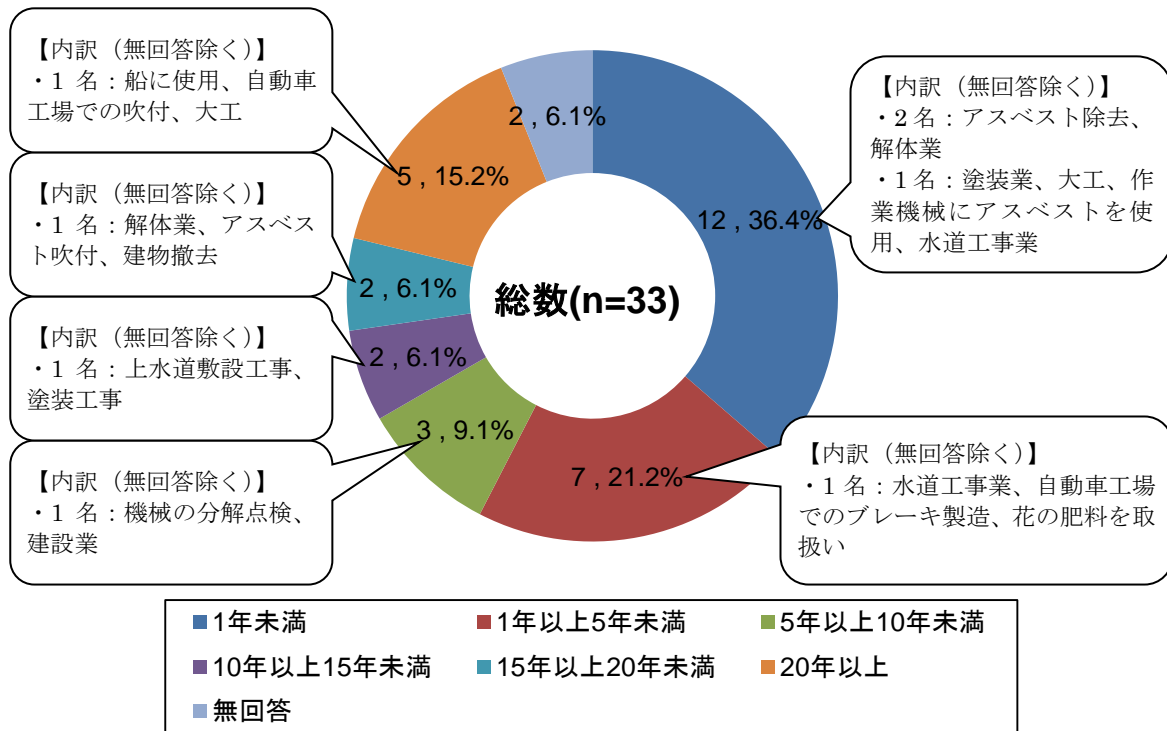


図 4-8 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業に従事していた年数（合計）及び具体的な作業内容

被災前の職業が「自営業」もしくは「勤め人（パートタイム含む）」のうち、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」人 33 名に対して、その職業に従事していた年数及び具体的な作業内容を確認したところ、1 年未満が 12 名で最も多かった。

具体的な作業内容としては、アスベスト吹付、除去、建設業など多岐にわたる。

4.4 被災後の石綿ばく露に関する状況

4.4.1 被災後の石綿ばく露に関する状況整理の視点

被災後の石綿ばく露に関する状況として、以下の3つの視点で整理した。

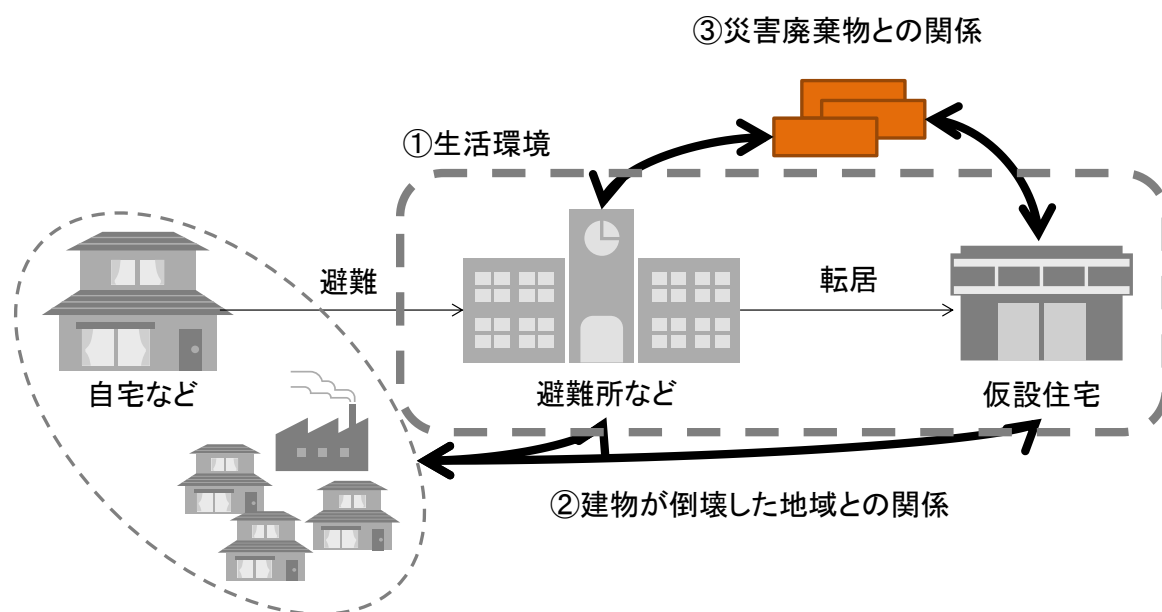


図 4-9 被災後の石綿ばく露に関する状況整理の視点

まず、被災後の生活環境（避難所、仮設住宅等での環境）について整理した。

次に、自宅や職場などの建物が倒壊した地域との関係（立ち入り状況、作業内容等）について整理した。

最後に、災害廃棄物（一次仮置場、二次仮置場など）との関係について整理した。

4.4.2 被災後の生活環境

○ 避難生活場所（仮設住宅を除く）周辺にあった施設

【平成 23 年度調査：問 15、平成 24 年度調査：一】

H23(n=326)

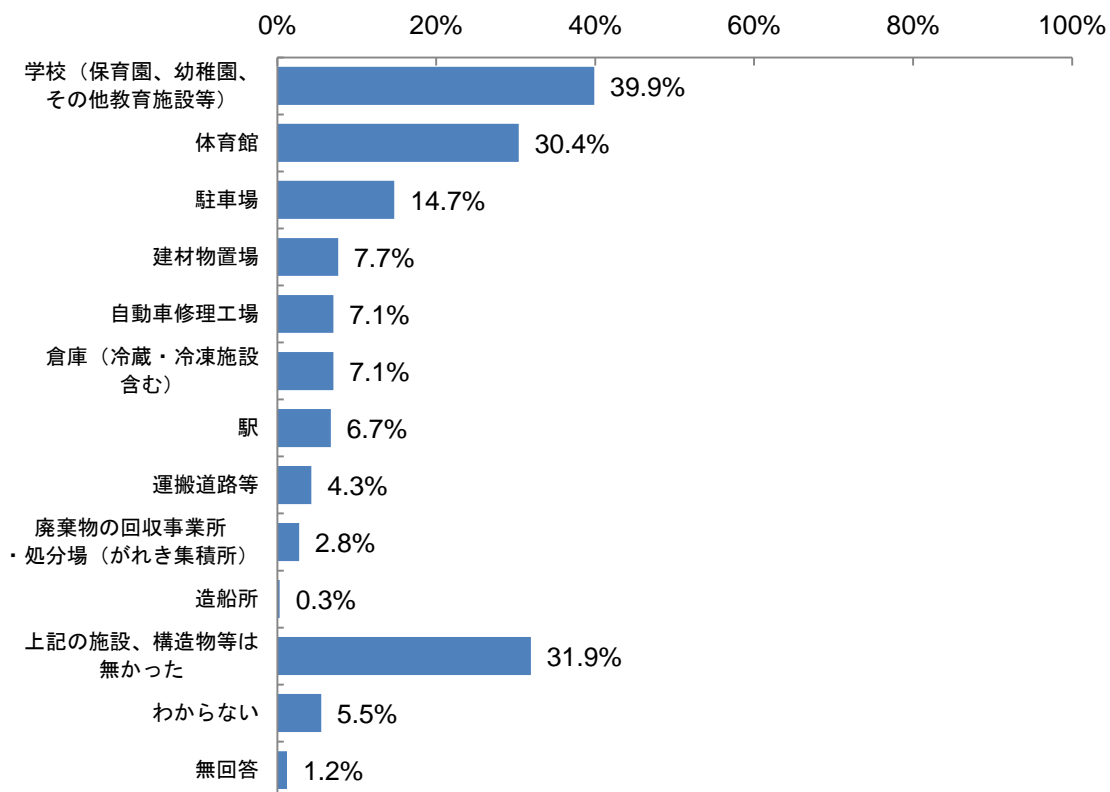


図 4-10 避難生活場所（仮設住宅を除く）の近くにあった施設

平成 23 年度調査では、避難生活場所（仮設住宅を除く）について、厚生労働省が平成 17 年度に取りまとめた「石綿ばく露歴把握のための手引」石綿自記式簡易調査票に記載のある施設の有無を確認した。その結果、「上記の施設、構造物等は無かった」人は 104 名（31.9%）で、「わからない」、「無回答」を除くと、6 割近くの方が「何らかの施設、構造物があった」と回答があった。

具体的な施設としては「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が 130 名（39.9%）で最も多く、次いで「体育館」（99 名、30.4%）、「駐車場」⁵（48 名、14.7%）と続く。

なお、施設数の分布をみると 1 施設が最も多く、2 施設以内で約 8 割を占める。

⁵ 調査票では「駐車場」としたが、面接の際には「何らかの建屋がある駐車場」として確認を行った。

○ 生活の拠点にしていた場所周辺にあった、被害のあった施設

【平成 23 年度調査：一、平成 24 年度調査：問 5-1(3)】

H24(n=326)

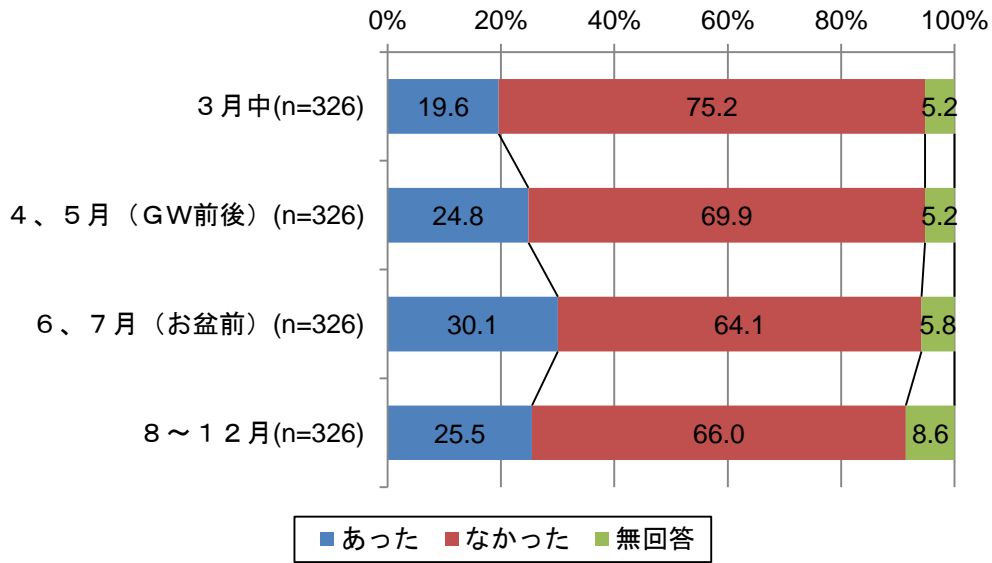


図 4-11 生活拠点の周辺にあった、被害のあった施設の有無

平成 24 年度調査では、生活の拠点にしていた場所について、期間ごとに厚生労働省が平成 17 年度に取りまとめた「石綿ばく露歴把握のための手引」石綿自記式簡易調査票に記載のある施設のうち被害（一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊）のあった施設の有無を確認した。その結果、生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の近くに一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した建物、構造物等が「あった」と認識されている人は、2 割程度であった。具体的な施設としては、いずれの期間においても「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が最も多く、6 割を超えた。

なお、施設数の分布をみるといずれの期間においても 1 施設が最も多く、2 施設以内で約 8 割を占める。

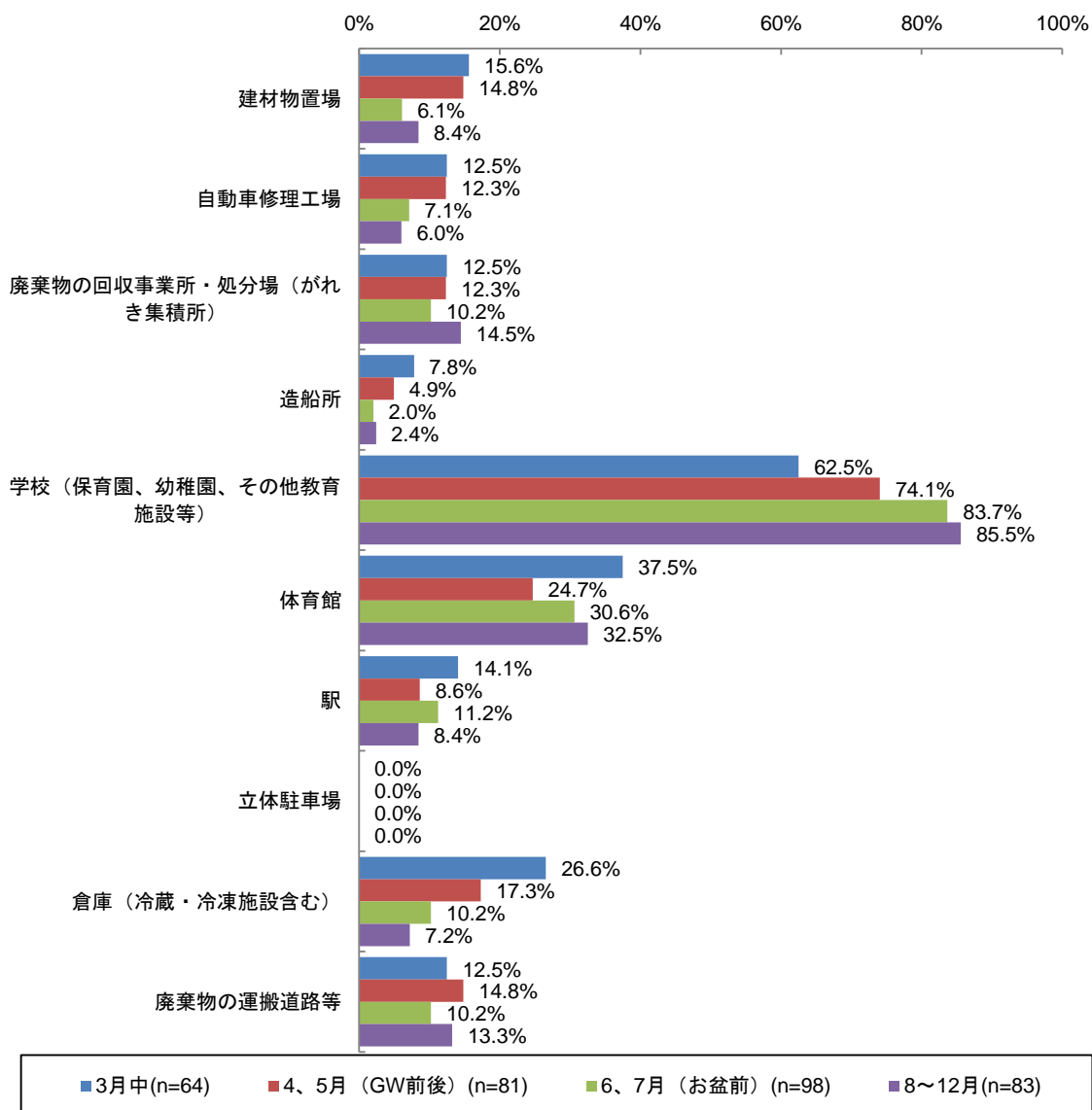


図 4-12 生活拠点の周辺にあった、被害のあった施設

4.4.3 自宅や職場などの建物が倒壊した地域との関係【平成 23 年】

○ 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況

【平成 23 年度調査：問 18(1)、平成 24 年度調査：問 5-1(6)】

総数(n=652)

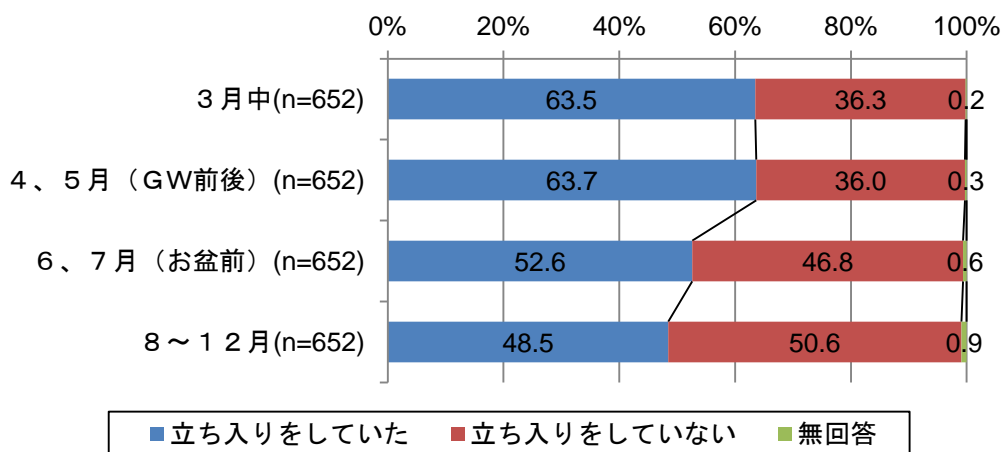


図 4-13 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況

被災後から年末までに自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」人は、4、5月 (GW 前後) をピーク (415 名、63.7%) に、8～12月になると 5 割弱 (316 名) まで減少した。

県別にみると、いずれの期間でも宮城県は「立ち入りをしていた」人の占める割合は 5 割を超える。また、岩手県及び福島県では、3月中に「立ち入りをしていた」人が最も多い。

性別にみると、男性の方が「立ち入りをしていた」人の占める割合が高い。

年齢階級別にみると、70 代以上の方はいずれの期間でも「立ち入りをしていた」人は 5 割を下回る。

なお、平成 23 年度調査において、地震発生時に「自宅」にいた人 170 名を対象に、建物の被害状況と立ち入り有無の関係性をみたが、特徴的な差異はみられなかった。

《属性別集計：県別》

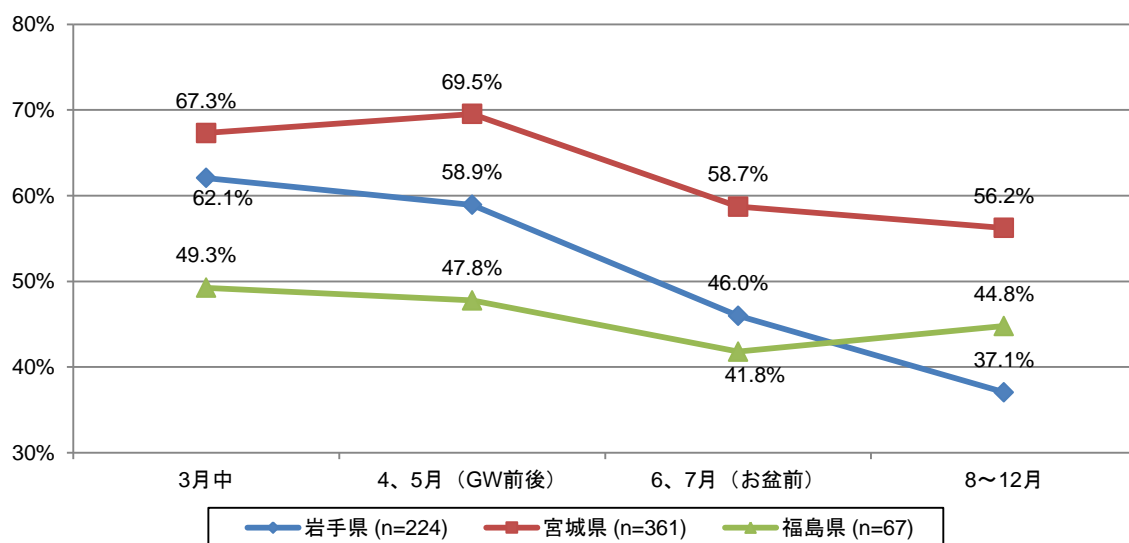


図 4-14 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況 (県別)

《属性別集計：性別》

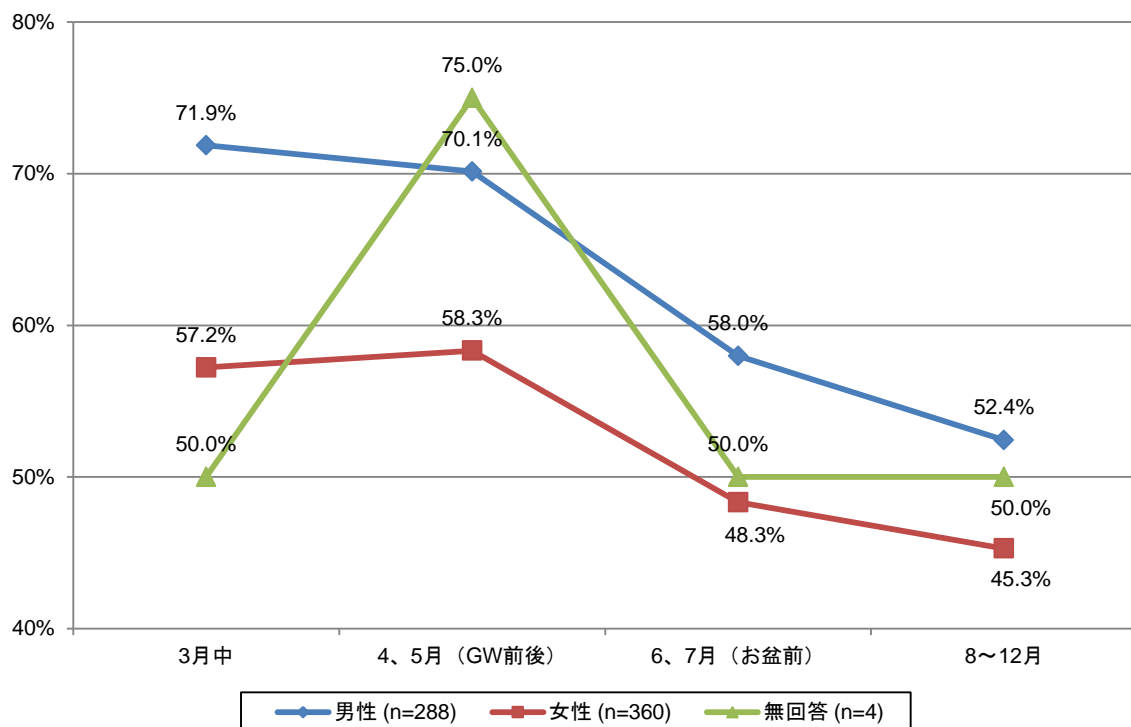


図 4-15 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況 (性別)

《属性別集計：年齢階級別》

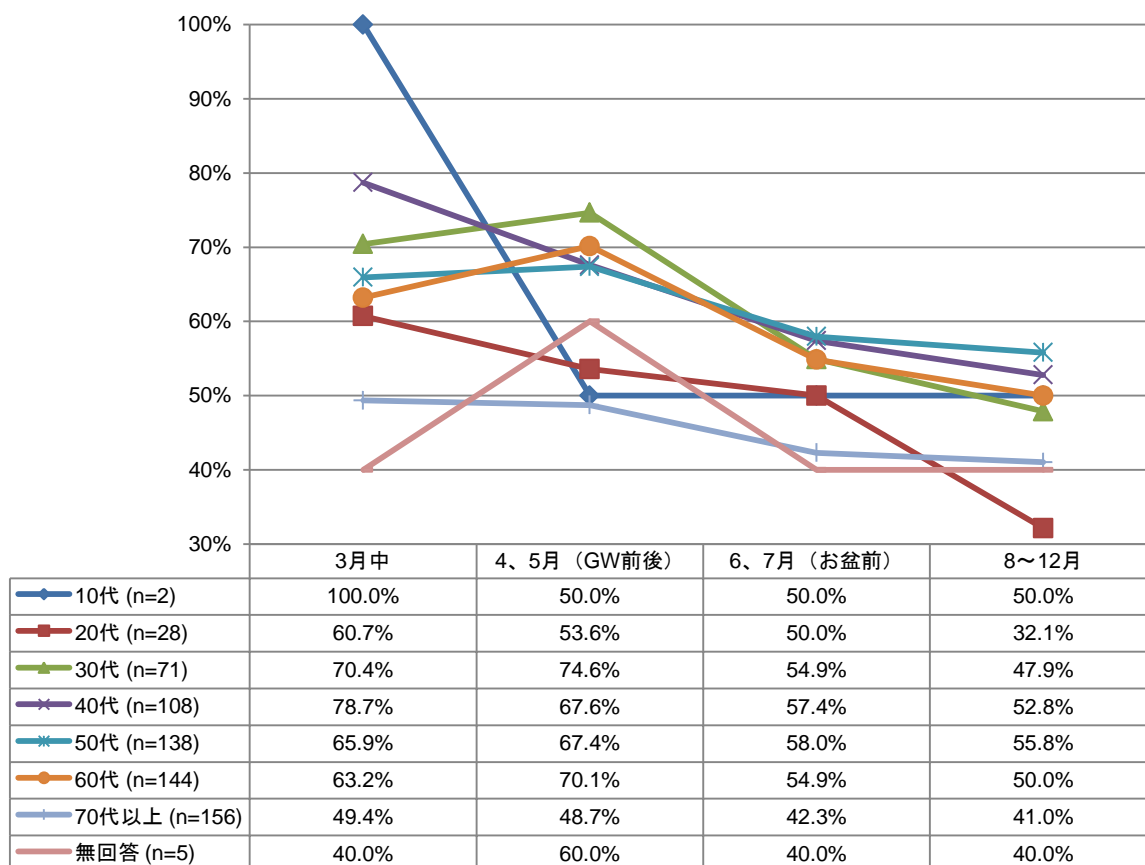


図 4-16 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況 (年齢階級別)

○ 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度

【平成 23 年度調査：問 18(1)、平成 24 年度調査：問 5-2(1)】

総数

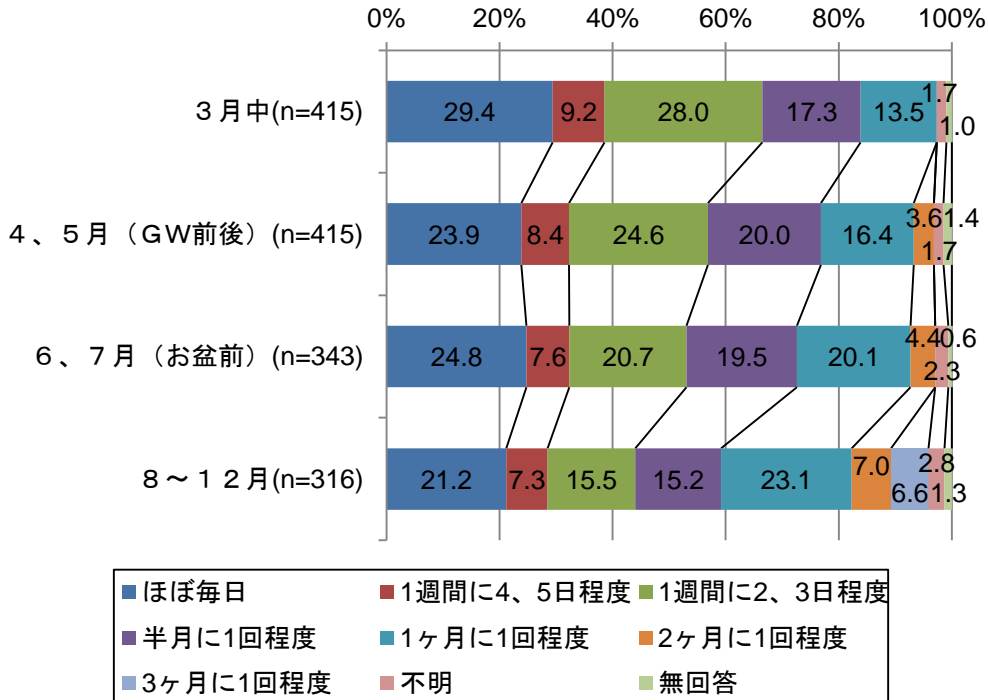


図 4-17 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度

自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」人を対象に、立ち入り頻度を確認したところ、3月中は「ほぼ毎日」が最も多いが、時間が経過するにつれて立ち入り頻度は減少していき、8～12月では「1ヶ月に1回程度」の方が最も多い。

立ち入り頻度の回答をもとに、立ち入り日数の最大値を計算したところ、期間を問わず「ほぼ毎日」立ち入っていた人(295日)が32名で最も多く、平均は83日、中央値は40日であった。

また、期間別に立ち入り頻度と1回あたりの平均活動時間との関係を見ると、3月中は「1週間に2、3日程度」、1回あたり「1時間以上3時間未満」活動された人が最も多いが、4月以降になると「1ヶ月に1回程度」、1回あたり「1時間未満」で活動された人が最も多い(図 4-19 参照)。

総数(n=490)

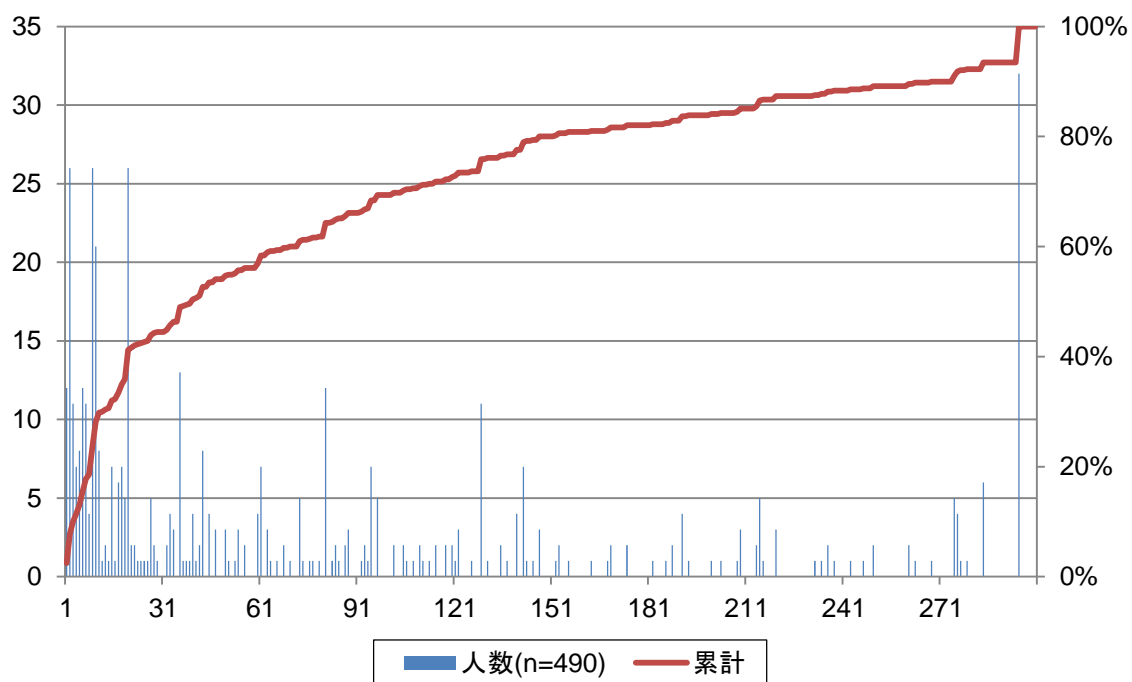


図 4-18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り日数（最大値）＜計算＞

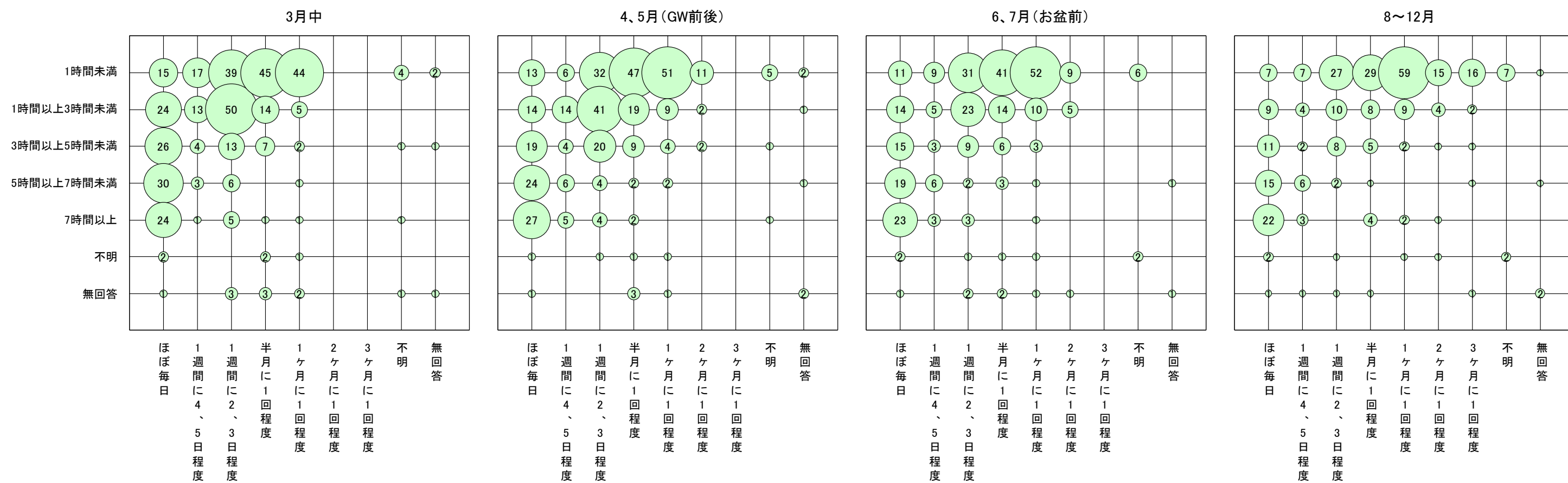


図 4-19 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度×1回あたりの平均活動時間（期間別）

○ 自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（実施した時間が最も長い項目）

【平成 23 年度調査：問 18(2)、平成 24 年度調査：問 5-2(2)】

総数

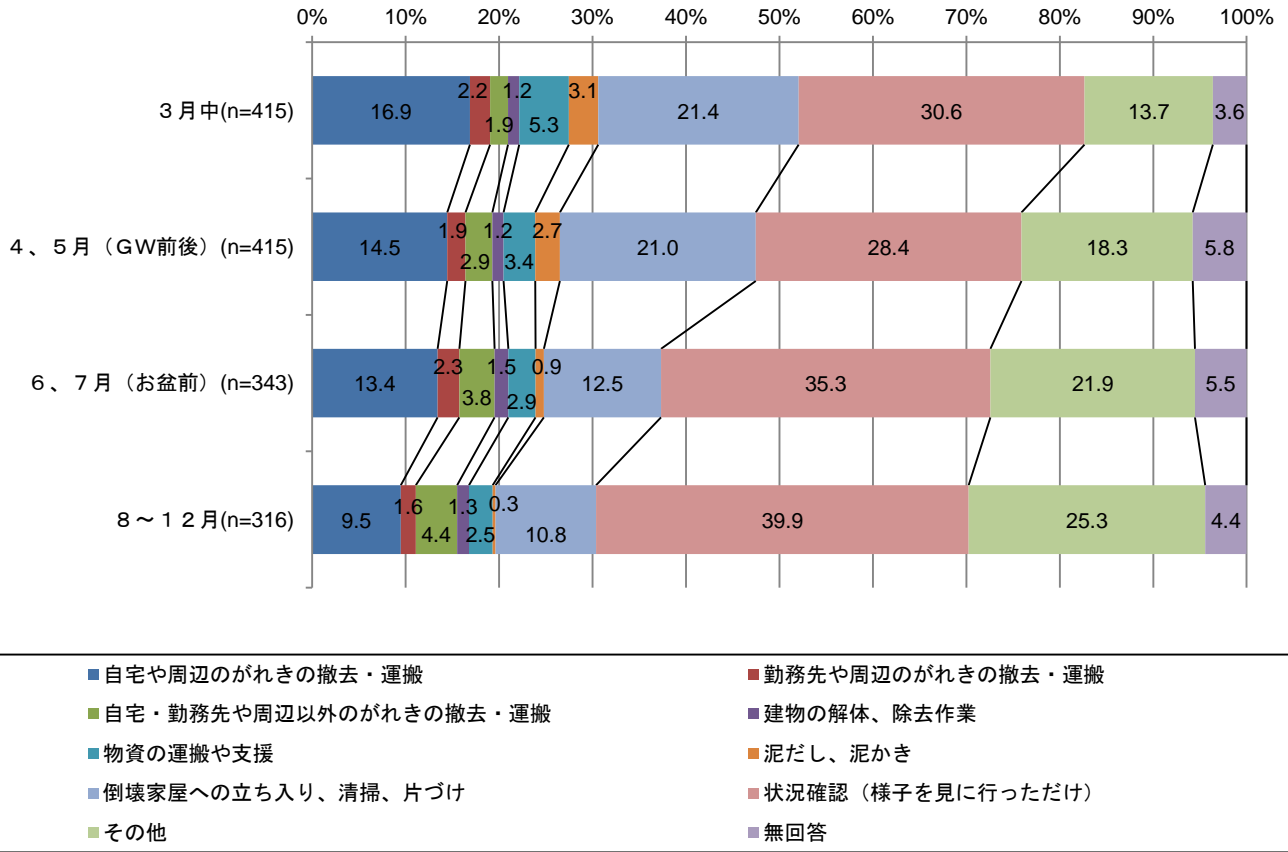


図 4-20 自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（実施した時間が最も長い項目）

自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（実施した時間が最も長い項目）としては、いずれの期間も「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多く、3割程度であった。

「何らかの作業をされた方」（「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬」、「自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬」、「建物の解体、除去作業」、「物資の運搬や支援」、「泥だし、泥かき」及び「倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け」の合計）は、3月中は5割程度であったが、時間が経過するにつれて徐々に減少していき、8～12月になると3割程度であった。

その他としては、「荷物、貴重品や思い出の品探し」、「自宅の清掃、復旧」、「行方不明者の捜索」、「見舞い」、「通過しただけ」など多岐にわたる。

なお、自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業項目の分布をみると、いずれの期間も1項目が最も多いが、「4、5月（GW前後）」までは3項目までで8割を超えるのに対し、「6、7月（お盆前）」以降は2項目までで8割を超えており、時間が経過するにつれ実施する項目も減少していることが明らかになった。

また、期間別に自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（主たるもの）と立ち入り頻度の関係を見ると、立ち入り頻度が低いほど「状況確認（様子を見に行っただけ）」の占める割合が高い（図 4-21 参照）。

さらに、期間別に自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（主たるもの）と作業形態の関係をみると、自主的な活動（団体等に属さない活動）では、4、5月までは「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多く、「倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け」が続くが、6、7月（お盆前）以降になると、「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多いが「その他」が続いており、建物が倒壊した地域での作業内容が多様化していることが伺える（図 4-22 参照）。

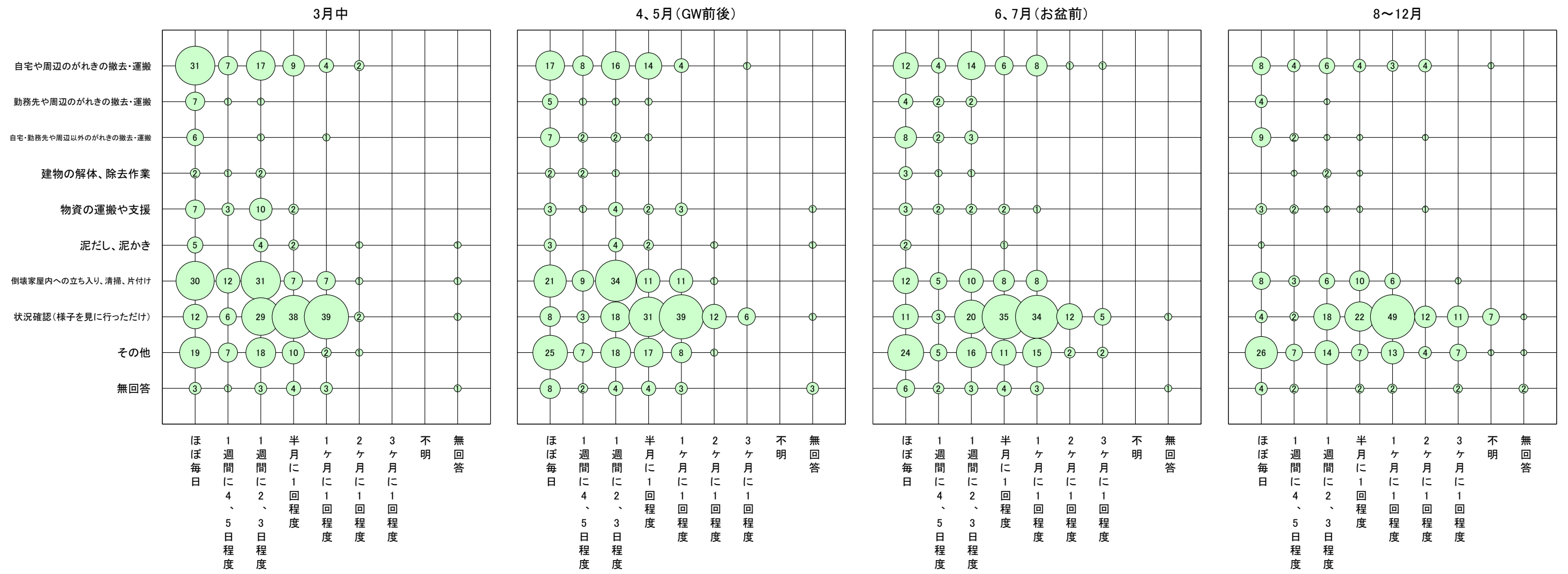


図 4-21 自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容（実施した時間が最も長い項目）×立ち入り頻度（期間別）

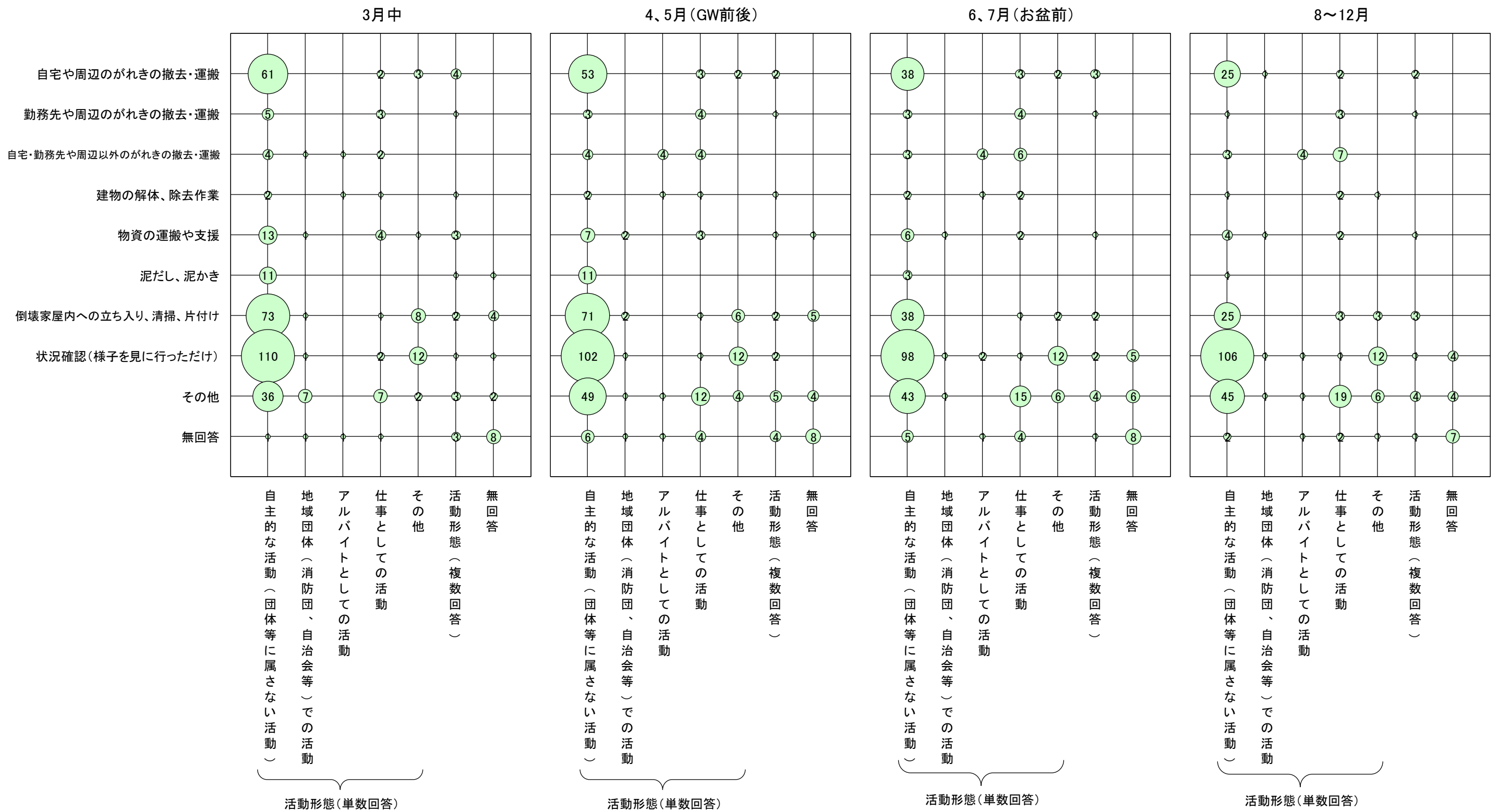


図 4-22 自宅や職場などの建物が倒壊した地域での作業内容(実施した時間が最も長い項目)×作業形態(期間別) <計算>

4.4.4 災害廃棄物との関係【平成 24 年】

○ 災害廃棄物処理現場付近での作業有無

【平成 23 年度調査：一、平成 24 年度調査：問 5-3(3)】

H24(n=326)

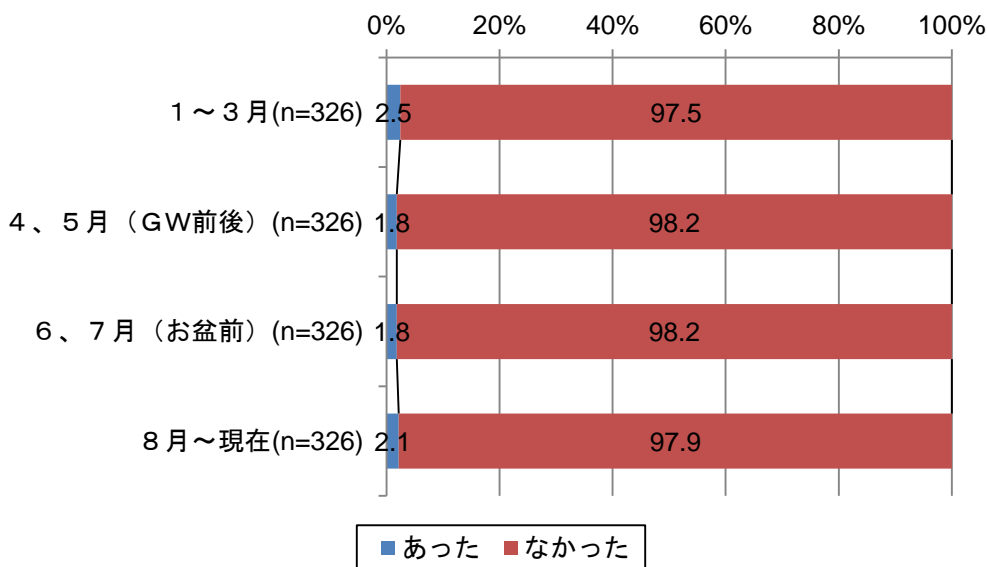


図 4-23 災害廃棄物処理現場付近での作業有無

平成 24 年度調査では、災害廃棄物処理現場（被災現場での建物の解体、除去、一次仮置場への災害廃棄物の搬入、一次仮置場での災害廃棄物の仮置き、一次仮置場での災害廃棄物の粗選別、二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別、二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬）近くでの作業有無、通過有無について確認した。その結果、近くで作業をしたことが「あった」方は、期間を問わず 10 名弱であった。

具体的な状況としては、期間を問わず「被災現場での建物の解体、除去」作業現場近くで作業をされた方が最も多い。

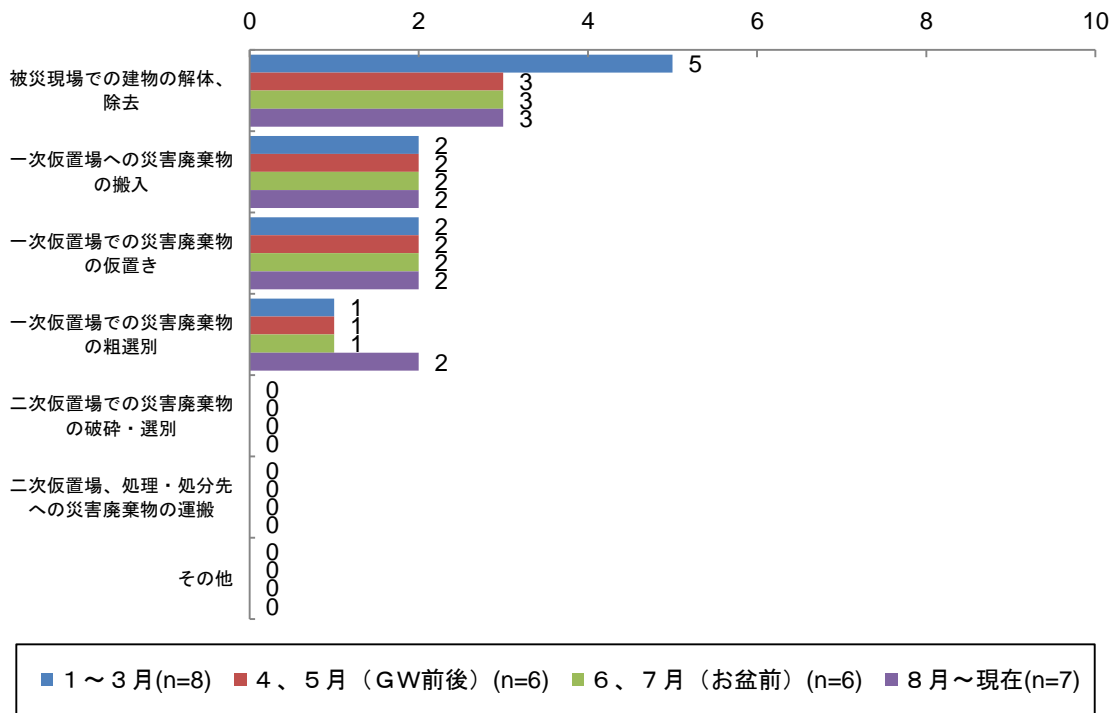


図 4-24 災害廃棄物処理現場付近での作業内容

○ 災害廃棄物処理現場付近の通過有無

【平成 23 年度調査：一、平成 24 年度調査：問 5-3(3)】

H24(n=326)

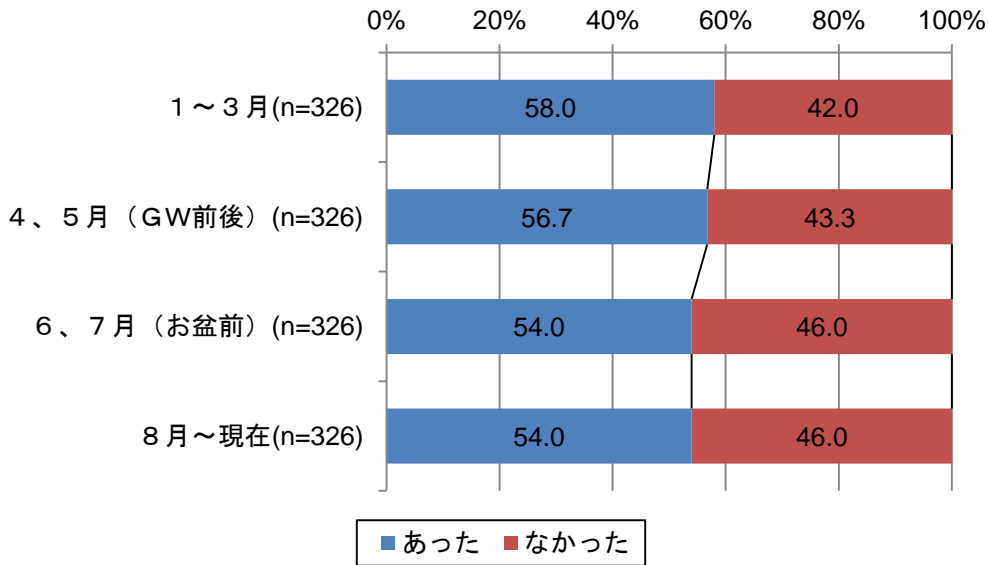


図 4-25 災害廃棄物処理現場付近の通過有無

災害廃棄物処理現場（被災現場での建物の解体、除去、一次仮置場への災害廃棄物の搬入、一次仮置場での災害廃棄物の仮置き、一次仮置場での災害廃棄物の粗選別、二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別、二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬）近くを通った有無について確認した。その結果、近くを通ったことが「あった」方は、期間を問わず 5 割を超えた。

具体的な状況としては、期間を問わず「一次仮置場での災害廃棄物の仮置き」現場近くを通った方の占める割合が最も高い。また、時間が経過するにつれて「被災現場での建物の解体、除去」の占める割合は減少し、二次仮置場における作業現場（「二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別」及び「二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬」）近くを通った方の占める割合が増加しており、災害廃棄物の処理が少しずつではあるが進んでいることを示唆している。

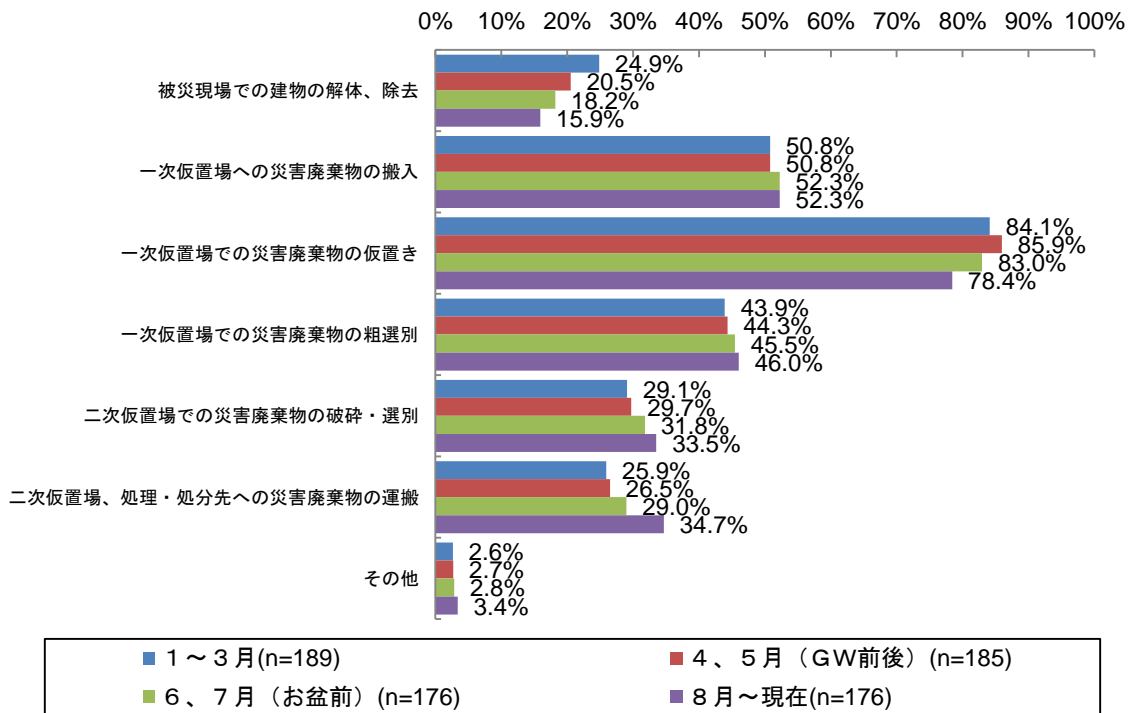


図 4-26 災害廃棄物処理現場付近の通過有無

4.5 石綿（アスベスト）対策に関する情報入手状況

4.5.1 石綿（アスベスト）に関する認知度

【平成 23 年度調査：問 19、平成 24 年度調査：問 6】

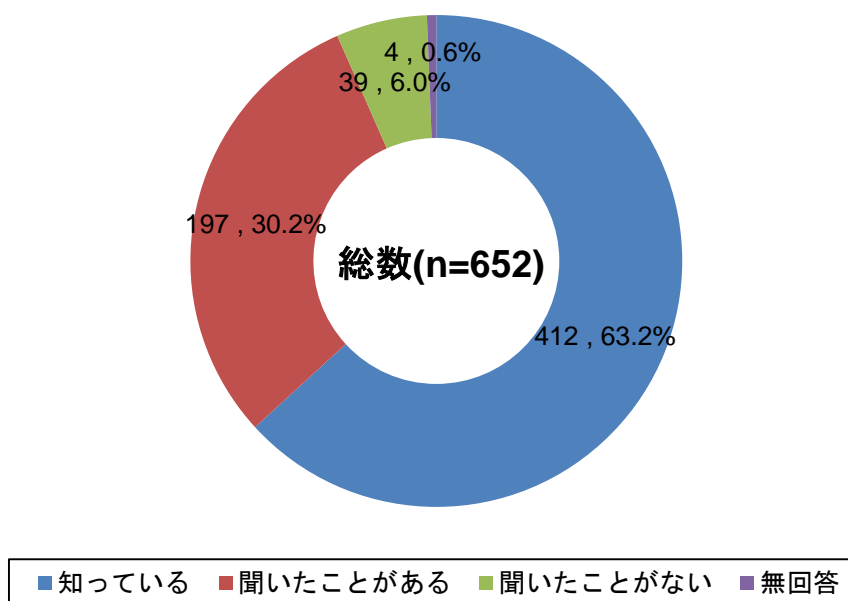


図 4-27 石綿（アスベスト）に関する認知度

「アスベスト」または「石綿」のことを「知っている」人は 6 割を超え、「聞いたことがある」人を加えると 9 割を超える。

県別にみると、岩手県では他県に比べ「知っている」人の占める割合が高い。

《属性別集計：県別》

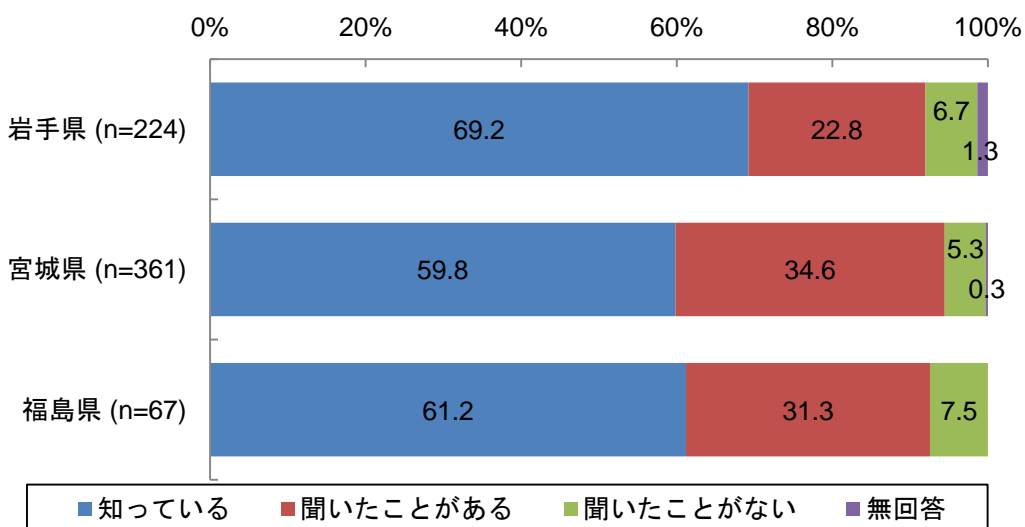


図 4-28 石綿（アスベスト）に関する認知度（県別）

4.5.2 石綿（アスベスト）を認知した時期

【平成 23 年度調査：問 20、平成 24 年度調査：問 7】

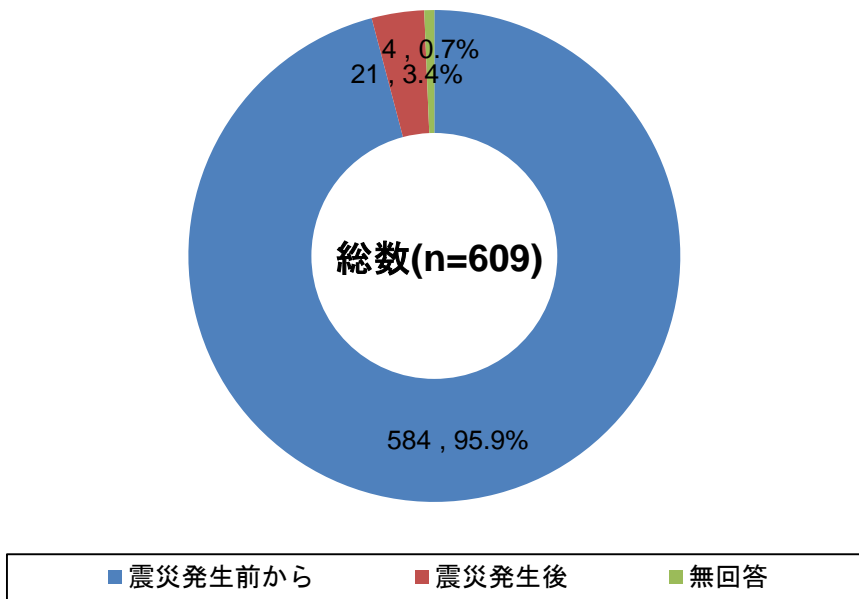


図 4-29 石綿（アスベスト）を認知した時期

「アスベスト」または「石綿」のことを「知っている」人もしくは「聞いたことがある」人 609 名に対し、認知した時期を尋ねたところ、「震災発生前から」認知していた人が 9 割を超え、「震災発生後」に認知した人は 21 名（3.4%）であった。

具体的な認知時期は、2000 年代が最も多く、4 割を超えた。

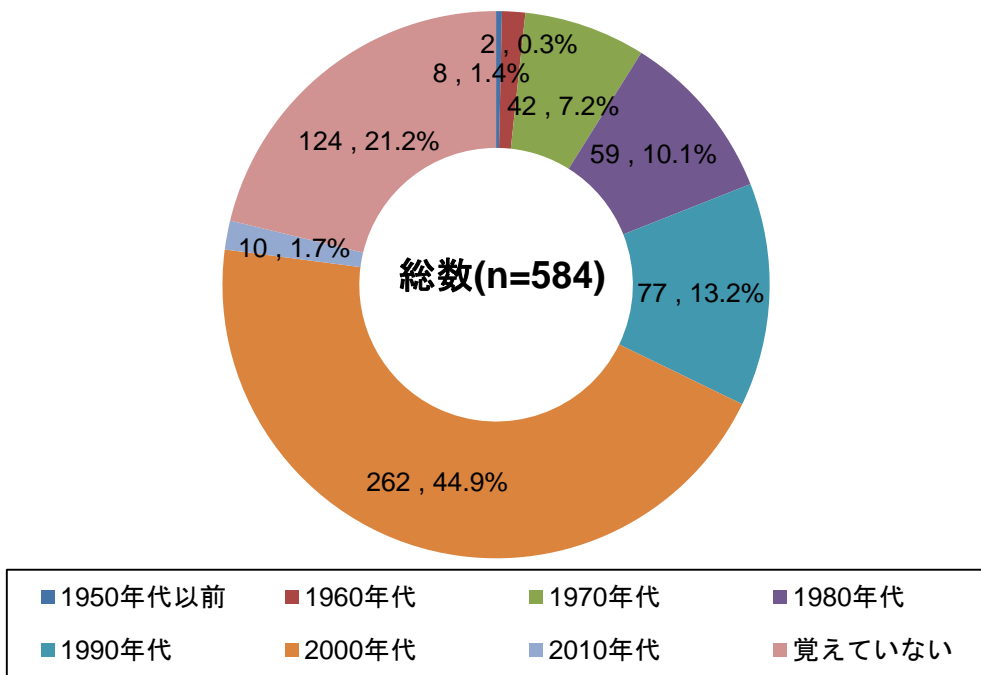


図 4-30 石綿（アスベスト）を認知した時期（西暦換算）

4.5.3 石綿（アスベスト）を認知した手段

【平成 23 年度調査：問 21、平成 24 年度調査：問 8】

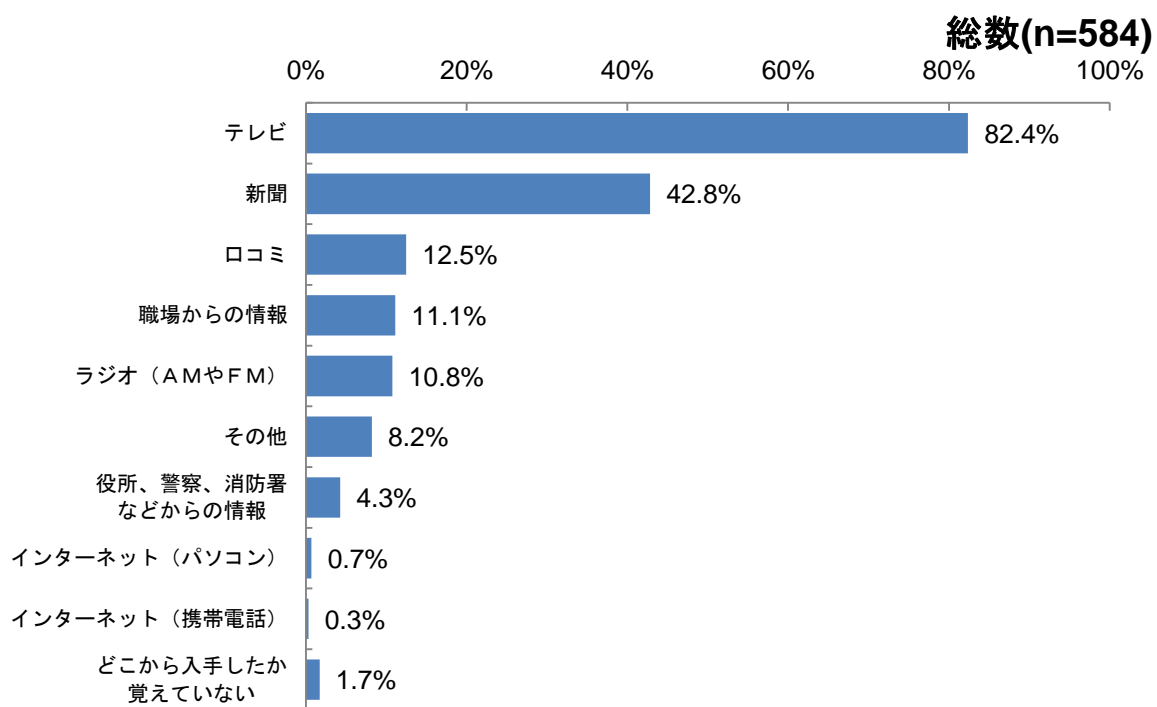


図 4-31 石綿（アスベスト）を認知した手段

「アスベスト」または「石綿」に関する情報の入手先としては「テレビ」が 481 名（82.4%）と最も多く、次いで「新聞」（250 名、42.8%）と続く。

4.5.4 身の回りのアスベストの有無

【平成 23 年度調査：問 22、平成 24 年度調査：問 9】

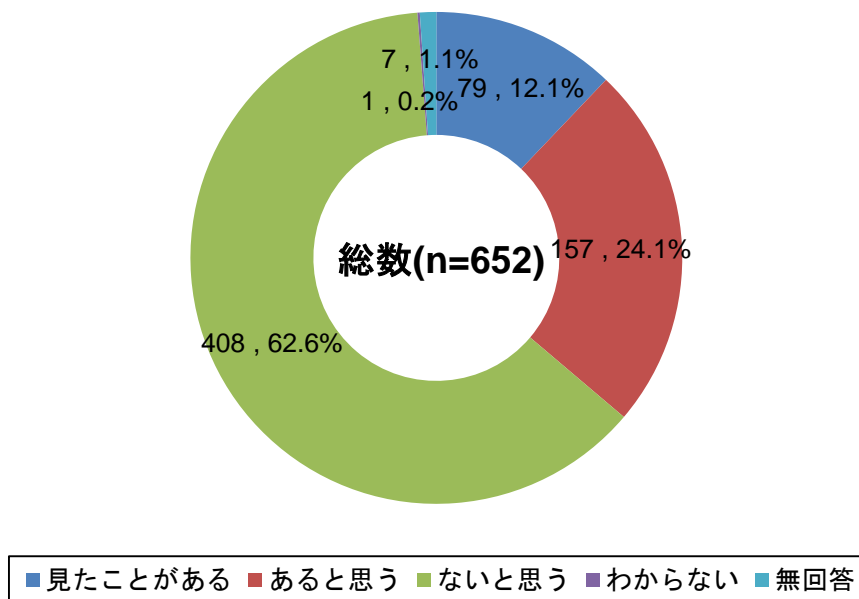


図 4-32 身の回りのアスベストの有無

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」人もしくは「あると思う」と思われる人は 236 名（36.2%）であった。

被災前の職業でアスベストを取り扱ったことが「あると思う」と認識されている人とそれ以外の人別にみると、被災前の職業で取り扱ったことが「あると思う」人の方が他の人に比べ、身の回りでアスベストを「見たことがある」人の占める割合が高い。

《属性別集計：被災前の取り扱い有無別》

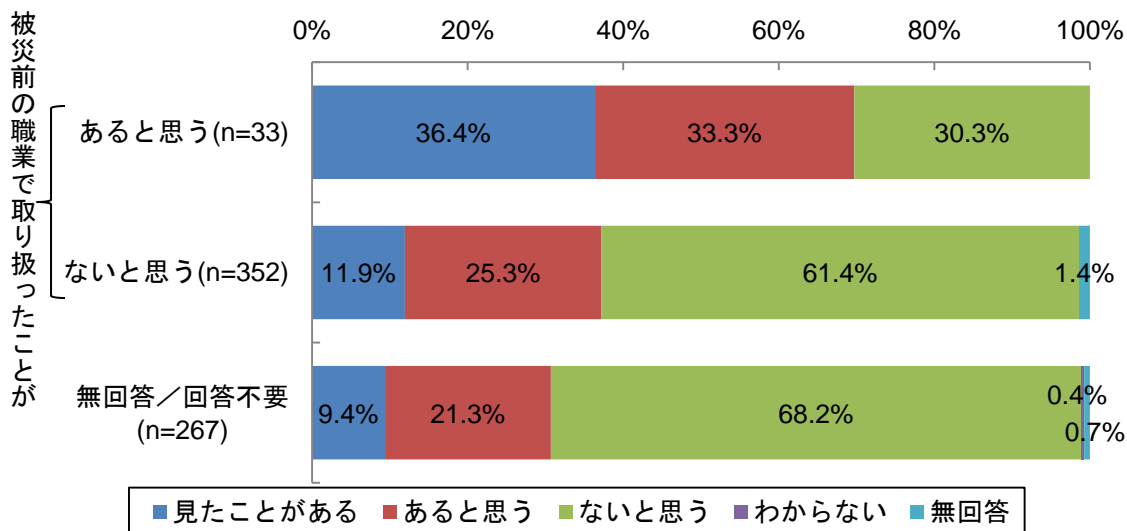


図 4-33 身の回りのアスベストの有無（被災前の取り扱い有無別）

総数(n=236)

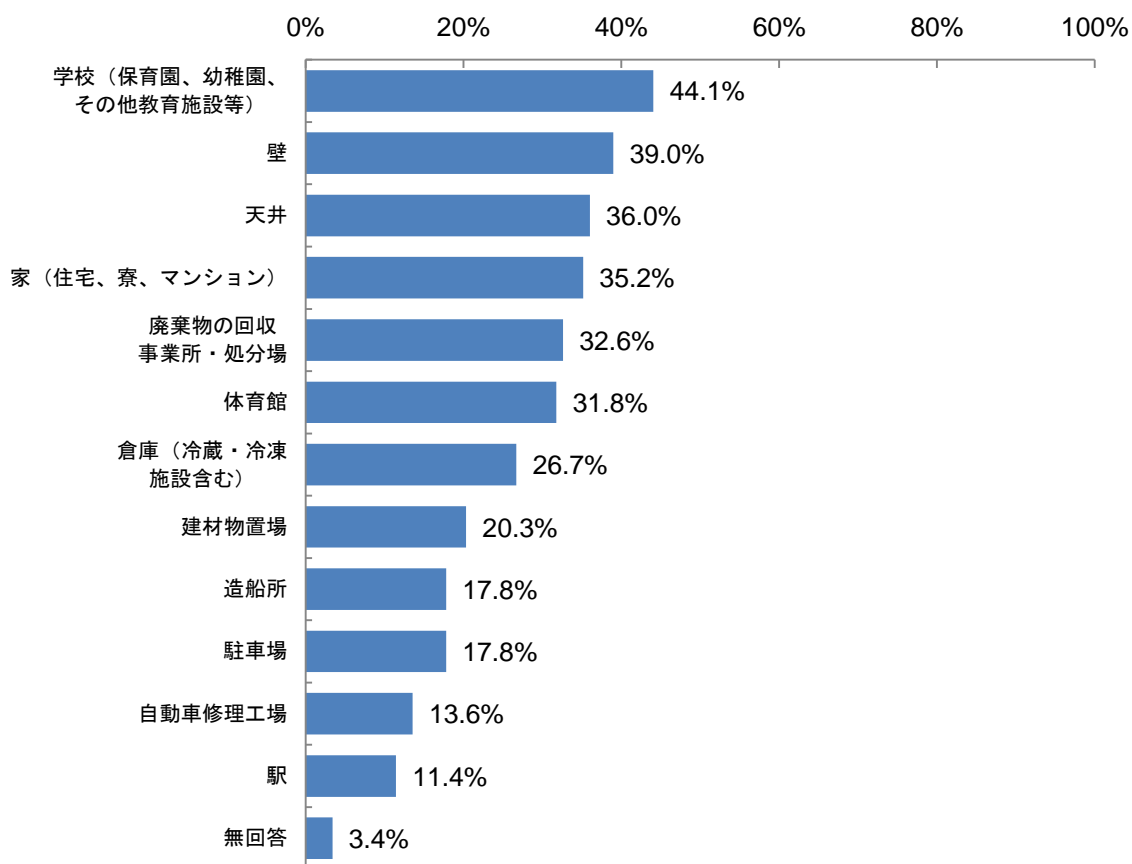


図 4-34 アスベストがあると思う場所や使われていると思うもの

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」人もしくは「あると思う」と思われる人 236 名に対し、具体的にアスベストがあると思う場所や使われていると思うものを尋ねたところ、「学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等)」が 104 名 (44.1%) で最も多く、次いで「壁」(92 名、39.0%)、「天井」(85 名、36.0%) と続く。

4.5.5 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況

【平成 23 年度調査：問 24、平成 24 年度調査：問 11】

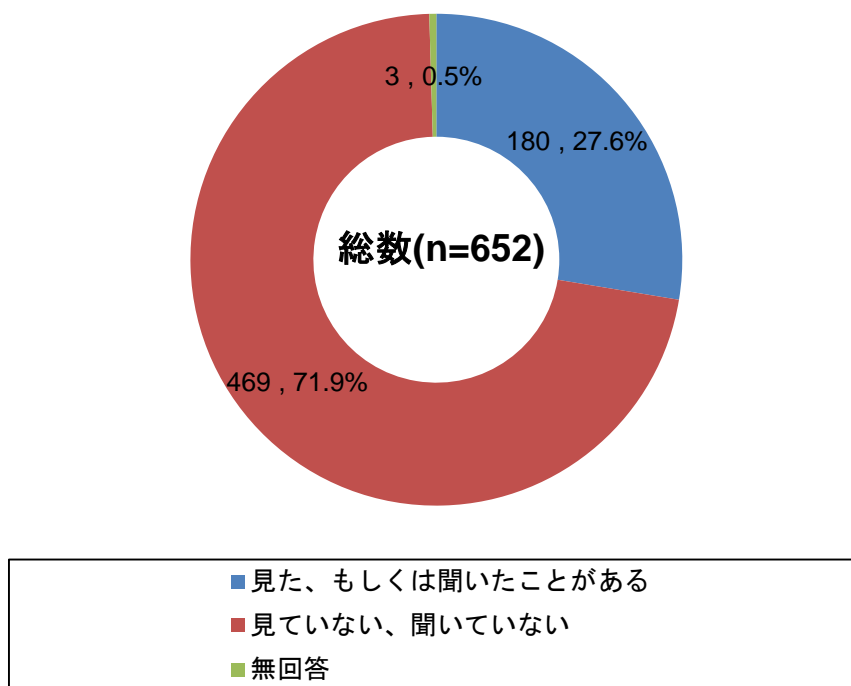


図 4-35 震災後のアスベスト対策に関する情報入手状況

被災後に、アスベスト対策に関して「見ていない、聞いていない」人が 7 割以上を占め、「見た、もしくは聞いたことがある」人は 180 名（27.6%）であった。

県別にみると、福島県では他の県に比べ、「見た、もしくは聞いたことがある」人の占める割合が低い。これは、原子力災害が発生したことも影響していると推察される。

《属性別集計：県別》

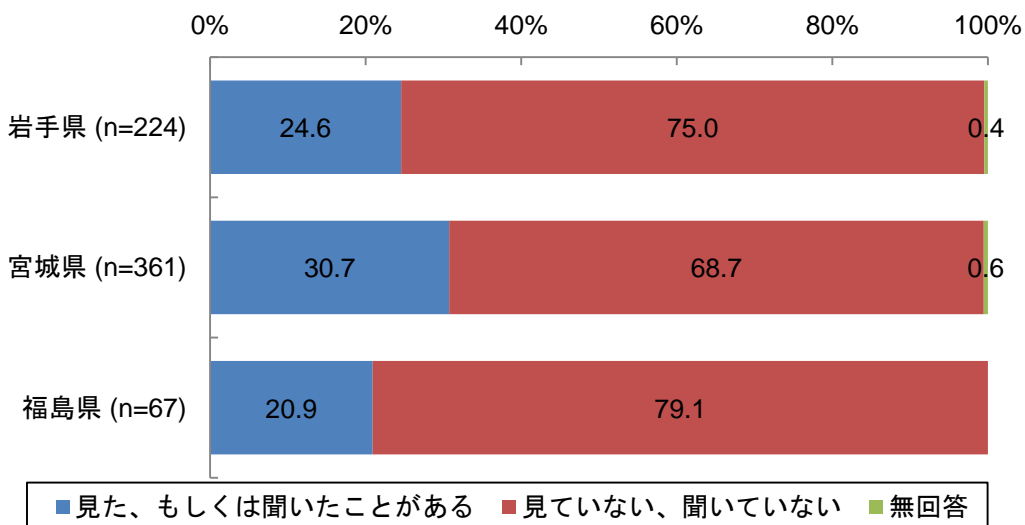


図 4-36 震災後のアスベスト対策に関する情報入手状況（県別）

4.5.6 アスベスト対策の情報入手後に気がつけたこと

【平成 23 年度調査：問 25-4、平成 24 年度調査：問 12-4】

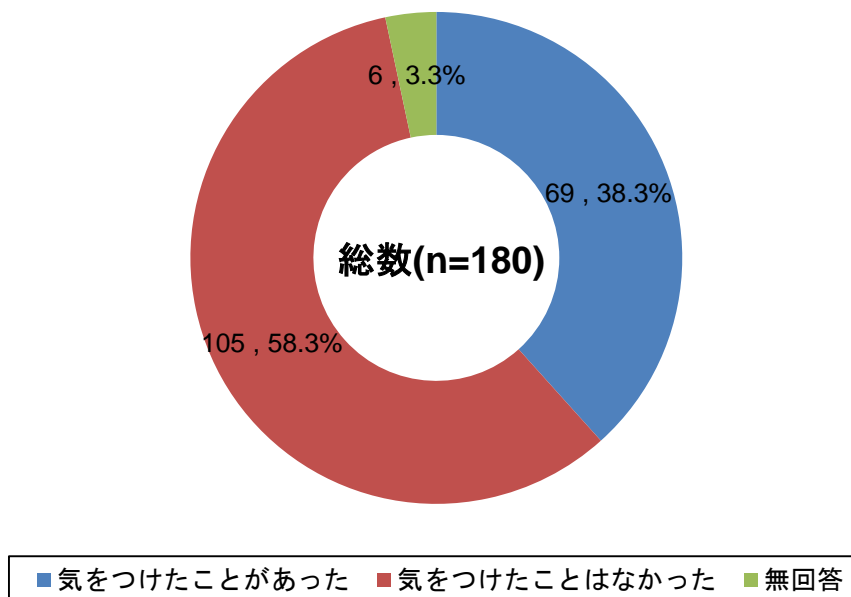


図 4-37 アスベスト対策の情報入手後に気がつけたこと

被災後に、アスベスト対策に関する情報を「見た、もしくは聞いたことがある」人 180 名に対し、これらの情報を入手した後に気がつけたかどうか確認したところ、「気がつけたことがあった」人は 69 名（38.3%）であった。

情報の入手時期別みると、1ヶ月以内（「1週間以内」、「2週間以内」、「3週間以内」及び「1ヶ月以内」（4月頃）の合計）に情報を入手した人の6割以上の人々が「気がつけたことがあった」のに対し、5月以降になると「気がつけたことはなかった」人の占める割合が高い。

具体的な対策としては、「マスクの着用」が最も多かった。

《属性別集計：情報の入手時期別》

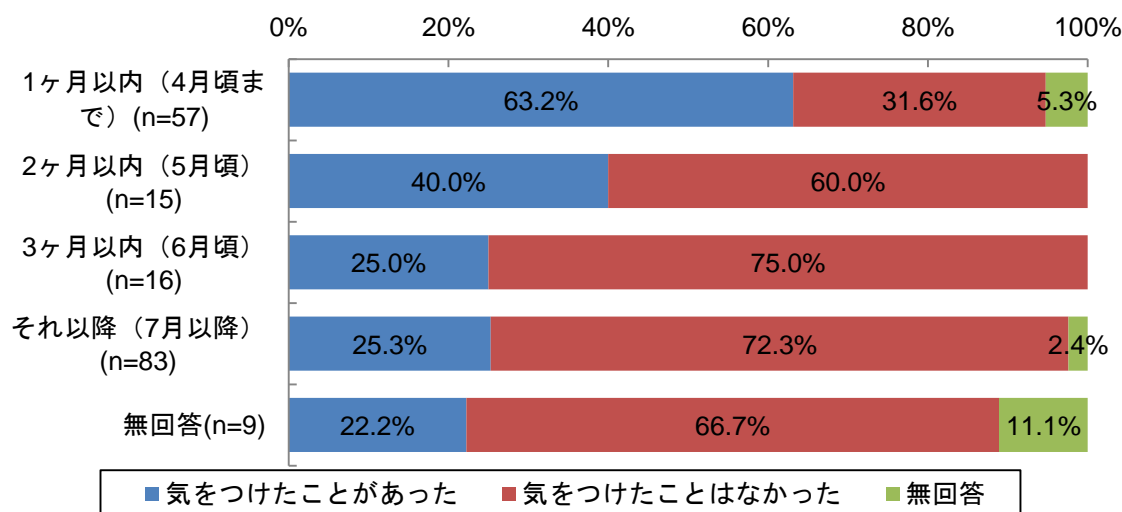


図 4-38 アスベスト対策に関する情報（被災後）を入手した後に気がつけたこと（情報の入手時期別）＜計算＞

5. まとめ

本業務では 2 か年にわたり、現地で被災者に聞き取り調査等を行うことにより、被災地での石綿ばく露の現状を把握した。

特に被災後の石綿ばく露については、時間が経過するにつれて被災者の行動も多様化していく中で、可能な限り類型を網羅できるよう調査を行った。

平成 23 年時点での石綿ばく露の類型については、自宅や職場などの建物が倒壊した地域への出入りを中心に整理を行った。結果として、「状況確認（様子を見に行っただけ）」のために出入りしていた方が最も多かったが、具体的な作業項目についても多様な回答が確認された。

平成 24 年時点での石綿ばく露の類型については、災害廃棄物等との関係性に着目して整理を行った。結果として、災害廃棄物処理現場近くで作業をしたことがある方は 10 名も満たなかったが、近くを通過した方は多数確認された。

被災地では現在もなお災害廃棄物等の処理が進んでおり、今後も被災地における石綿によるばく露の現状を把握しておくことが重要と考える。

添付 1

平成 23 年度調査 調査票

アンケート調査票

平成24年 2月 実施

<記入上の注意>

1. ご本人がお答えください。氏名は記入しないでください。
2. ボールペン、または、濃い鉛筆でご記入ください。
3. お答えは、設問ごとに【○は一つ】、【○は該当するものいくつでも】など指定されていますので、当てはまる番号を○で囲んでください。
4. 特に指定のない設問は全員がお答えください。設問に矢印（……………➤）がある場合は、該当者のみ、その矢印にそってお進みください。
5. 「その他」を選択した場合は、その内容を具体的にご記入ください。
6. この調査票についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

◆調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所

調査担当：太田・根本・大江 TEL：0120-155-075

*受付時間 9:00～17:00

◆調査主体

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ（株）

担当：^{くつかわ}沓川、油目 TEL：03-3518-8431

◆委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

次のページからアンケートの設問となります。

被災前の状況についてお伺いします。

問1 被災前の居住地域をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|-------------|------|
| 1 同一市町内 | 3 県外 |
| 2 同一市町外（県内） | |

問2 被災前の居住地域に住んでいた年数をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1年未満 | 5 30年以上 40年未満 |
| 2 1年以上 10年未満 | 6 40年以上 50年未満 |
| 3 10年以上 20年未満 | 7 50年以上 |
| 4 20年以上 30年未満 | 8 不明 |

問3 被災前の居住家屋の構造をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 木造 | 4 その他(具体的に:) |
| 2 鉄筋コンクリート造り | 5 不明 |
| 3 鉄骨造り | |

問4 被災前の居住家屋の築年数をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1年未満 | 5 30年以上 40年未満 |
| 2 1年以上 10年未満 | 6 40年以上 50年未満 |
| 3 10年以上 20年未満 | 7 50年以上 |
| 4 20年以上 30年未満 | 8 不明 |

問5 被災前の居住家屋周辺で以下の施設、構造物等が近くにありましたか。
【〇は該当するものいくつかでも】

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 建材物置場 | 6 体育館 |
| 2 自動車修理工場 | 7 駅 |
| 3 廃棄物の回収事業所・処分場 | 8 駐車場 |
| 4 造船所 | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 10 上記の施設、構造物は無かった |

問6 被災前の職業をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 自営業 | 4 学生 |
| 2 勤め人 (パートタイム含む) | 5 無職 |
| 3 主婦 | 6 その他(具体的に:) |

＜問7は、問6で「1自営業、2勤め人(パートタイム含む)」と答えた方におたずねします。その他の方は、問9にお進みください。＞

→ **問7 被災前の職業(作業)で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。【〇は1つ】**

- | |
|---------------------|
| 1 あると思う(具体的な作業内容:) |
| 2 ないと思う |

＜問8は、問7で「1あると思う」と答えた方におたずねします。「2ないと思う」と答えた方は、問9にお進みください。＞

→ **問8 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業(作業)に従事していた年数(合計)をご回答ください。【〇は1つ】**

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 1年未満 | 4 10年以上15年未満 |
| 2 1年以上5年未満 | 5 15年以上20年未満 |
| 3 5年以上10年未満 | 6 20年以上 |

裏面に続きます。

避難時の状況についてお伺いします。

問 1 1 避難行動時の移動手段をご回答ください。【〇は1つ】

1 歩いて避難した	4 自動車での避難した
2 自転車で避難した	5 船で避難した
3 バイクで避難した	6 その他(具体的に:)

問 1 2 避難先をご回答ください。【〇は1つ】

1 教育施設(保育園・幼稚園・学校)	7 体育館・運動施設
2 職場	8 神社・お寺
3 公民館・集会所等	9 自治体施設(役場・庁舎等)
4 福祉施設(老人ホーム等)	10 知人、親戚宅
5 宿泊施設(ホテル・民宿等)	11 その他(具体的に:)
6 医療施設(病院・診療所等)	

問 1 3 避難行動時に以下の施設、構造物の近くを通過もしくは、見た覚えがありますか。【〇は該当するものいくつかでも】

1 建材物置場	6 体育館
2 自動車修理工場	7 駅
3 廃棄物の回収事業所・処分場	8 駐車場
4 造船所	9 倉庫(冷蔵・冷凍施設含む)
5 学校(保育園、幼稚園、その他教育施設等)	10 上記の施設、構造物は無かった
	11 覚えていない、わからない

問 1 4 避難行動を開始してから避難先に到着するまで、どれくらいの時間がかかりましたか。【〇は1つ】

1 15分未満	4 1時間以上3時間未満
2 15分以上30分未満	5 3時間以上5時間未満
3 30分以上1時間未満	6 5時間以上

裏面に続きます。

避難中の生活についてお伺いします。

問 1 5 避難生活場所（仮設住宅を除く）の近くに、以下の建物、構造物等がありましたか。【○は該当するものいくつかでも】

1 建材物置場	6 体育館
2 自動車修理工場	7 駅
3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所)	8 駐車場
4 造船所	9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む）
5 学校（保育園、幼稚園、その他教 育施設等）	10 運搬道路等
	11 上記の施設、構造物等は無かった

問 1 6 避難生活場所（仮設住宅を除く）での過ごし方について最もあてはまるものをご回答ください。【○は1つ】

1 大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした
2 どちらかというとなんか避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした
3 ほとんど避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内にはいなかった（屋外で過ごした）

問 1 7 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。【○は1つ】

1 立ち入りをしていた
2 立ち入りをしていない

＜問18は、問17で「1立ち入りをしていた」と答えた方におたずねします。「2立ち入りをしていない」と答えた方は、問19にお進みください。＞

問18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	3 月中	4、 5月 (GW 前後)	6、 7月 (お盆 前)	8 ～ 12 月
(1) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。【○は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 3月中は立ち入っていない 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 4、5月中は立ち入っていない 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 6、7月中は立ち入っていない 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 8～12月中は立ち入っていない 9 不明
(2) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。【実施した時間が最も長い項目1つに◎、その他実施した項目すべてに○】	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他 ()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他 ()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他 ()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他 ()
(3) (2)の項目について、活動形態をご回答ください。【○は該当するものいくつでも】	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他 ()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他 ()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他 ()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他 ()
(4) 1回あたりの平均活動時間をご回答ください。【○は1つ】	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明

石綿（アスベスト）に関する意識についてお伺いします。

問19 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。【〇は1つ】

- 1 知っている
- 2 聞いたことがある
- 3 聞いたことがない

＜問20は、問19で「1知っている」、「2聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「3聞いたことがない」と答えた方は、問22にお進みください。＞

→ 問20 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。

【〇は1つ】

- 1 震災発生前から（いつ頃ですか： 年ころ）
- 2 震災発生後

＜問21は、問20で「1震災発生前から」と答えた方におたずねします。「2震災発生後」と答えた方は、問22にお進みください。＞

→ 問21 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。

【〇は該当するものいくつでも】

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 1 テレビ | 6 ツイッターやSNSなど |
| 2 ラジオ（AMやFM） | 7 ロコミ |
| 3 新聞 | 8 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 インターネット（パソコン） | 9 その他（具体的に： ） |
| 5 インターネット（携帯電話） | 10 どこから入手したか覚えていない |

問22 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。

【〇は1つ】

- 1 見たことがある
- 2 あると思う
- 3 ないと思う

＜問23は、問22で「1見たことがある」、「2あると思う」と答えた方におたずねします。「3ないと思う」と答えた方は、問24にお進みください。＞

→ 問23 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【〇は該当するものいくつでも】

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 造船所 | 7 駅 |
| 2 建材物置場 | 8 駐車場 |
| 3 自動車修理工場 | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む） |
| 4 廃棄物の回収事業所・処分場 | 10 家（住宅、寮、マンション） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 11 壁 |
| 6 体育館 | 12 天井 |

問24 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。

【〇は1つ】

- | |
|-------------------|
| 1 見た、もしくは聞いたことがある |
| 2 見ていない、聞いていない |

＜問25は、問24で「1見た、もしくは聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「2見ていない、聞いていない」と答えた方は、F1にお進みください＞

→ 問25-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつですか。【〇はひとつ】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 震災発生後1週間以内 | 5 震災発生後2ヶ月以内(5月頃) |
| 2 震災発生後2週間以内 | 6 震災発生後3ヶ月以内(6月頃) |
| 3 震災発生後3週間以内 | 7 それ以降(7月以降) |
| 4 震災発生後1ヶ月以内(4月頃) | |

→ 問25-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先ひとつに◎、その後に入手した先で該当するものすべてに〇】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 テレビ | 7 ツイッターやSNSなど |
| 2 ラジオ(通常のAMやFM) | 8 口コミ |
| 3 さいがいエフエム(コミュニティFM) | 9 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 新聞 | 10 その他(具体的に:) |
| 5 インターネット(パソコン) | 11 どこから入手したか覚えていない |
| 6 インターネット(携帯電話) | |

→ 問25-3 それはどのような内容でしたか。【自由記述】

→ 問25-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気をつけたことはありましたか。【〇は1つ】

- | |
|-------------------------|
| 1 気をつけたことがあった(具体的な内容:) |
| 2 気をつけたことはなかった |

添付 2

平成 24 年度調査 調査票

アンケート調査票

平成24年10月 実施

<記入上の注意>

1. ご本人がお答えください。氏名は記入しないでください。
2. ボールペン、または、濃い鉛筆でご記入ください。
3. お答えは、設問ごとに【○は一つ】、【○は該当するものいくつでも】など指定されていますので、当てはまる番号を○で囲んでください。
4. 特に指定のない設問は全員がお答えください。設問に矢印（……………➤）がある場合は、該当者のみ、その矢印にそってお進みください。
5. 「その他」を選択した場合は、その内容を具体的にご記入ください。
6. この調査票についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

◆調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所
調査担当：太田、根本、佐藤 TEL：022-225-3871

◆調査主体

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ（株）
担当：くつかわ沓川、油目、三好 TEL：03-3518-8431

◆委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

被災前の状況についてお伺いします。

問1 被災前の居住地域をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 同一市町内（地区名： ） | 3 県外（都道府県名： ） |
| 2 県内（市町村名： ） | |

問2 被災前の職業をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| 1 自営業 | 4 学生 |
| 2 勤め人（パートタイム含む） | 5 無職 |
| 3 主婦 | 6 その他（具体的に： ） |

＜問3は、問2で「1自営業、2勤め人（パートタイム含む）」と答えた方におたずねします。その他の方は、問5にお進みください。＞

→ 問3 被災前の職業（作業）で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。【〇は1つ】

- | |
|--|
| 1 あると思う（具体的な作業内容： ） |
| 2 ないと思う |

＜問4は、問3で「1あると思う」と答えた方におたずねします。「2ないと思う」と答えた方は、問5にお進みください。＞

→ 問4 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業（作業）に従事していた年数（合計）をご回答ください。【〇は1つ】

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 1年未満 | 4 10年以上15年未満 |
| 2 1年以上5年未満 | 5 15年以上20年未満 |
| 3 5年以上10年未満 | 6 20年以上 |

避難中の生活についてお伺いします。

問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 23年 3月中	平成 23年 4、5月 (GW前後)	平成 23年 6、7月 (お盆前)	平成 23年 8、9月
(1) 生活の拠点にしていた場所についてご回答ください。【滞在した時間が最も長い地点1つに◎、その他滞在した地点すべてに○】	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分:) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ()	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分:) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ()	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分:) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ()	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分:) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ()
(2) (1) で◎を選択した場所の被害状況についてご回答ください。【○は1つ】	1 一部損壊、半壊 2 大規模半壊、全壊 3 被害はなかった	1 一部損壊、半壊 2 大規模半壊、全壊 3 被害はなかった	1 一部損壊、半壊 2 大規模半壊、全壊 3 被害はなかった	1 一部損壊、半壊 2 大規模半壊、全壊 3 被害はなかった
(3) (1) で◎を選択した場所の近くに、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した以下の建物、構造物等がありましたか。【○は該当するものいくつかでも】	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ
(4) (3) で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした頻度をご回答ください。【○は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 9 不明
(5) (3) で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【○は1つ】	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった
(6) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。【○は1つ】	1 立ち入りをしていた →問5-2へ 2 立ち入りをしていない →問5-3へ	1 立ち入りをしていた →問5-2へ 2 立ち入りをしていない →問5-3へ	1 立ち入りをしていた →問5-2へ 2 立ち入りをしていない →問5-3へ	1 立ち入りをしていた →問5-2へ 2 立ち入りをしていない →問5-3へ

＜問5-2は、問5-1(6)で「1 立ち入りをしていた」と答えた方におたずねします。「2 立ち入りをしていない」と答えた方は、引き続き問5-3をご回答ください。＞

問5-2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 23年 3月中	平成 23年 4、5月 (GW前後)	平成 23年 6、7月 (お盆前)	平成 23年 8、9月
(1) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。【〇は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明
(2) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。【実施した時間が最も長い項目1つに◎、その他実施した項目すべてに〇】	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他()
(3) (2)の項目について、活動形態をご回答ください。【〇は該当するものいくつかでも】	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()
(4) 1回あたりの平均活動時間をご回答ください。【〇は1つ】	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明

問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 24年 1 ～ 3 月	平成 24年 4、 5 月 (GW 前後)	平成 24年 6、 7 月 (お盆 前)	平成 24年 8 月 ～ 現在
(1) 毎日の生活で多く時間をとっていたことは何ですか。【○は1つ】	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 () 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 () 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 () 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 () 12 何もしていない
(2) 外出の頻度についてご回答ください。【○は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明
(3) 次のような作業現場の近くを通ったり、近くで作業をしたことはありますか。【近くで作業をした項目すべてに◎、近くを通った項目すべてに○】	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に：) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ()	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に：) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ()	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に：) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ()	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に：) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ()
(4) (3) で選択した作業現場の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【○は1つ】	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった	1 気を付けたことがあった () 2 気を付けたことはなかった

石綿（アスベスト）に関する意識についてお伺いします。

問6 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。【〇は1つ】

- | |
|------------|
| 1 知っている |
| 2 聞いたことがある |
| 3 聞いたことがない |

＜問7は、問6で「1知っている」、「2聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「3聞いたことがない」と答えた方は、問9にお進みください。＞

→ 問7 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。

【〇は1つ】

- | |
|---|
| 1 震災発生前から（いつ頃ですか： 年ころ） |
| 2 震災発生後 |

＜問8は、問7で「1震災発生前から」と答えた方におたずねします。「2震災発生後」と答えた方は、問9にお進みください。＞

→ 問8 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。

【〇は該当するものいくつでも】

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 1 テレビ | 6 ロコミ |
| 2 ラジオ（AMやFM） | 7 職場からの情報 |
| 3 新聞 | 8 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 インターネット（パソコン） | 9 その他（具体的に： ） |
| 5 インターネット（携帯電話） | 10 どこから入手したか覚えていない |

問9 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。

【〇は1つ】

- | |
|-----------|
| 1 見たことがある |
| 2 あると思う |
| 3 ないと思う |

＜問10は、問9で「1見たことがある」、「2あると思う」と答えた方におたずねします。「3ないと思う」と答えた方は、問11にお進みください。＞

→ 問10 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【〇は該当するものいくつでも】

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 造船所 | 7 駅 |
| 2 建材物置場 | 8 駐車場 |
| 3 自動車修理工場 | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む） |
| 4 廃棄物の回収事業所・処分場 | 10 家（住宅、寮、マンション） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 11 壁 |
| 6 体育館 | 12 天井 |

問 1 1 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。

【〇は1つ】

- | |
|-------------------|
| 1 見た、もしくは聞いたことがある |
| 2 見ていない、聞いていない |

＜問 1 2 は、問 1 1 で「1 見た、もしくは聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「2 見ていない、聞いていない」と答えた方は、F1にお進みください＞

→ 問 1 2-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつですか。【〇はひとつ】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 震災発生後 1 週間以内 | 5 震災発生後 2 ヶ月以内 (5 月頃) |
| 2 震災発生後 2 週間以内 | 6 震災発生後 3 ヶ月以内 (6 月頃) |
| 3 震災発生後 3 週間以内 | 7 それ以降 (7 月以降) |
| 4 震災発生後 1 ヶ月以内 (4 月頃) | |

→ 問 1 2-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先 1 つに◎、その後に入手した先で該当するものすべてに〇】

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 テレビ | 7 職場からの情報 |
| 2 ラジオ (通常の AM や FM) | 8 ロコミ |
| 3 さいがいエフエム (コミュニティ FM) | 9 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 新聞 | 10 その他 (具体的に:) |
| 5 インターネット (パソコン) | 11 どこから入手したか覚えていない |
| 6 インターネット (携帯電話) | |

→ 問 1 2-3 それはどのような内容でしたか。【自由記述】

→ 問 1 2-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気をつけたことはありましたか。【〇は1つ】

- | |
|--------------------------|
| 1 気をつけたことがあった (具体的な内容:) |
| 2 気をつけたことはなかった |

